

No.

481

エ ジ プ ト 国

ビル崩壊災害救済

国際緊急援助隊救助チーム

報 告 書

平成 8 年 12 月

JICA LIBRARY



J 1139980 [5]

国際協力事業団

緊 業

JR

96-03



1139980 [5]

序 文

日本国政府は、平成8年10月29日、エジプト政府からの要請に基づき、同年10月27日同国カイロ市郊外のヘリオポリス市で発生したビル崩壊災害に対し、国際緊急援助を行うことを決定しました。

これを受けて国際協力事業団は、平成8年10月30日から11月6日まで、外務省経済協力局国際緊急援助室室長和田章男氏を団長とする国際緊急援助隊救助チーム24名を派遣しました。同援助隊は、崩壊したビルの中に取り残された要救助者の捜索・救出活動を行い、帰国後その活動結果を本報告書に取りまとめました。

今回の救援活動の成果としては、隊員の一体となったチームワークのもと昼夜を問わずエジプト側救助隊と一致協力して精力的な活動を行ったことと、また携行したハイテク機器を駆使して救助活動を促進したことが挙げられ、これらの活動に対してエジプト官民及び内外のマスコミの絶賛するところとなりました。

本報告書が、エジプト側の今後の災害復旧に貢献するとともに、今後のわが国国際緊急援助活動の参考になることを期待します。

終わりに、今次国際緊急援助活動にご協力とご支援をいただいた関係者の皆様に対し、心から感謝の意を表します。

平成8年12月

国際協力事業団
理事 小澤大二

目次

序文

I 災害概要等	1
1. 災害概要	1
2. 被害概要	1
3. エジプト側の対応	1
II 活動内容	3
1. 派遣期間	3
2. 派遣国	3
3. 派遣隊員	3
4. 派遣目的	6
5. 活動場所	6
6. 活動のローテーション	8
7. 携行資機材の管理方法	9
8. 活動日誌	10
9. 撤収	14
III 活動の成果	15
IV 隊員の生活状況	16
V 隊員の健康管理	17
VI 現地の受け入れ・協力体制	18
VII 団長所感	21
巻末資料	23
1. 現地状況報告	25
2. 携行機材リスト	45
3. エジプト政府からの感謝状	48
4. 帰国報告会議事録	51
5. 帰国隊員アンケート結果	53
6. 報道ぶり（国内報道等）	55
7. 報道ぶり（現地紙報道）	72
8. 写真	107

I 災害概要等

1. 災害概要

10月27日(日)現地時間18時25分(日本時間28日 午前1時25分)カイロ県ヘリオポリス市の12階建てのビルが崩壊し、住民が生き埋めになった。(同ビルは建築後25年経過し、1階はクリニック、2階は改装中の銀行が入っており、48戸の住宅が入っていた。)

2. 被害概要

(11月3日現在の被害状況)

死者(遺体で発見された者) 64名

自力で脱出した者・救出された者 24名

3. エジプト側の対応

(1)対応機関

ア 非常委員会/救援対策本部

委員長:ムスタファ・カメル将軍 (Mustafa Camel)

救援対策本部長(現場指揮)

:カイロ県市民防衛隊 消防長官 (Cairo Civil Defense, Fire Department, General)

ナデル・ノアマン将軍

(Nadel Noaman)

:同 消防局長 (head of fire department)

ブリゴール・ザガリア・メシェリフ

(Brigor Zakaria Mesharif)

:同 消防隊長 (chief operation for fire brigade)

アブデル・ラジク・アメール

(Abdel Razik Amer)

:同 化学処理隊長 (Captain Chemist)

アームド・ワバ・ナースル

(Ahmed Wahba Nasr)

イ 人員数 消防隊員約200名、作業員約100名、警察/陸軍50名程度で現場作業(正確な人数不明)

ウ エジプト側使用機材

パワーショベル2機、ブルドーザー2機、エンジンカッター3台

土砂搬出用トラック2台

(2)事故原因

崩壊したビルは、1969年に7階建てのビルを建設する許可に基づき建設され、その後所有者は1977年に8階部分の建増し許可を取得して、数年間にわたり5階の建増しを行い

12階建てのビルになったもの。同ビルに対しては、1993年当局より違法建築で危険であるとして、建て直しの命令が出ていた。

災害の直接の原因は、同ビルに入っていた銀行が改装工事の際に邪魔になった何本かの柱を取り払ったために、ビルのバランスが崩れて崩壊に至ったものと見られている。今次災害により当局はビルの所有者を緊急逮捕し、取り調べを行った。

II 活動内容

1. 派遣期間

平成8年10月30日(水)～同年11月6日(水)(8日間)

2. 派遣国

エジプト国

3. 派遣隊員

エジプト国ビル崩壊災害救済国際緊急援助隊(救助チーム)メンバーリスト

JAPAN DISASTER RELIEF TEAM(RESCUE TEAM)FOR BUILDING COLLAPSE IN EGYPT

	氏名 (NAME)	所属先・役職 (OCCUPATION)	指導科目 (ASSIGNMENT)
団長	和田 章男 Mr. Akio WADA	外務省経済協力局国際緊急援助室長 DIRECTOR, THE OVERSEAS DISASTER ASSISTANCE DIVISION, ECONOMIC COOPERATION BUREAU, MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS	総括 (LEADER)
団員	鶴澤 忠一 Mr. Kenichi UZAWA	警察庁国際第一課 警視 CHIEF LIAISON OFFICER, POLICE SUPERINTENDENT, NATIONAL POLICE AGENCY	副総括兼隊長 (SUB LEADER AND CAPTAIN)
	森 実 Mr. Minoru MORI	警視庁第四機動隊 警部 POLICE INSPECTOR, SECURITY BUREAU, THE FOURTH MOBILE UNIT, TOKYO METROPOLITAN POLICE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)
	柳下 吉夫 Mr. Yoshimi YAGISHITA	警視庁特科車組隊 警部補 ASSISTANT POLICE INSPECTOR, TECHNICAL BRANCH, SPECIAL VEHICLES UNIT, TOKYO METROPOLITAN POLICE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)
	日笠 照男 Mr. Teruo HIKASA	警視庁第二機動隊 巡查部長 POLICE SERGEANT, TECHNICAL BRANCH, TOKYO METROPOLITAN POLICE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)
	有川 豊治 Mr. Toyoji ARIKAWA	警視庁第三機動隊 巡查部長 POLICE SERGEANT, TECHNICAL BRANCH, THE THIRD MOBILE UNIT, TOKYO METROPOLITAN POLICE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)

	氏名 (NAME)	所属先・役職 (OCCUPATION)	指導科目 (ASSIGNMENT)
	長岡 和文 Mr. Kazufumi NAGAOKA	警視庁第六機動隊 巡查部長 POLICE SERGEANT, TECHINICAL BRANCH, THE SIXTH MOBILE UNIT, TOKYO METROPOLITAN POLICE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)
	金輪 聖一 Mr. Seichi KANAWA	警視庁第五機動隊 巡查部長 POLICE SERGEANT, TECHINICAL BRANCH, THE FIFTH MOBILE UNIT, TOKYO METROPOLITAN POLICE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)
	小野瀬 義祝 Mr. Yoshinori ONOSE	警視庁第四機動隊 巡查 SENIOR POLICE OFFICER, TECHINICAL BRANCH, THE FOURTH MOBILE UNIT, TOKYO METROPOLITAN POLICE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)
	川端 博幸 Mr. Hiroyuki KAWABATA	警視庁第八機動隊 巡查 SENIOR POLICE OFFICER, TECHINICAL BRANCH, THE EIGHT MOBILE UNIT, TOKYO METROPOLITAN POLICE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)
	林 栄太郎 Mr. Eitaro HAYASHI	自治省消防庁 救急救助課 課長補佐 ASSISTANT DIRECTOR, AMBULANCE AND RESCUE SERVICE DIVISION, FIRE AND DISASTER MANAGEMENT AGENCY, MINISTRY OF HOME AFFAIRS	副総括 (SUB LEADER)
	堤 十九夫 Mr. Tokuo TSUTSUMI	東京消防庁 警防部 救助課長 CHIEF, RESCUE SECTION, FIRE SUPPRESSION DIVISION, TOKYO FIRE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)
	日野 進 Mr. Susumu HINO	東京消防庁 警防部救助課 安全管理係長 CAPTAIN, SAFETY BRANCH, RESCUE SECTION FIRE SUPPRESSION DIVISION, TOKYO FIRE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)
	井上 光男 Mr. Mitsuo INOUE	東京消防庁 江戸川消防署 消防副士長 ASSISTANT FIRE SERGEANT, EDOGAWA FIRE STATION, TOKYO FIRE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)
	相田 光一 Mr. Koichi AIDA	大阪市消防局 西消防署 消防士長 FIRE SERGEANT, NISHI FIRE STATION, OSAKA MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)

氏名 (NAME)	所属先・役職 (OCCUPATION)	指導科目 (ASSIGNMENT)
大塚 通寛 Michihiro OTSUKA	大阪市消防局 阿倍野消防署 消防士長 FIRE SERGEANT, ABENO FIRE STATION, OSAKA MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)
山崎 英樹 Mr. Hideki YAMAZAKI	札幌市消防局 消防司令補 FIRE LIEUTENANT, SAPPORO MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)
工藤 光浩 Mr. Mitsuhiro KUDO	札幌市消防局 消防士長 FIRE SERGEANT, SAPPORO MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)
尾崎 和善 Mr. Kazuyoshi OZAKI	松戸市消防局 消防司令補 FIRE LIEUTENANT, MATSUDO MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 (RESCUE)
谷山 繁隆 Mr. Sigetaka TANIYAMA	第三管区海上保安本部 羽田特殊救難基地 第二隊長 MARITIME SAFETY OFFICER, 2ND RESCUE TEAM, SPECIAL RESCUE STATION, 3RD REGIONAL MARITIME SAFETY HEADQUARTERS, MARITIME SAFETY AGENCY	副総括 (SUB LEADER)
保坂 和彦 Mr. Kazuhiko HOSAKA	第三管区海上保安本部 羽田特殊救難基地 第二隊 JUNIOR MARITIME SAFETY OFFICER, 2ND RESCUE TEAM, SPECIAL RESCUE STATION, 3RD REGIONAL MARITIME SAFETY HEADQUARTERS, MARITIME SAFETY AGENCY	救急救助 (RESCUE)
角田 彰 Mr. Akira KAKUDA	第三管区海上保安本部 横浜海上保安局 巡視船のじま 航海士補 JUNIOR MARITIME SAFETY OFFICER, PATROL VESSEL NOJIMA, YOKOHAMA MARITIME SAFETY OFFICE, 3RD REGIONAL MARITIME SAFETY HEADQUARTERS, MARITIME SAFETY AGENCY	救急救助 (RESCUE)
小郷 宏和 Mr. Hirokazu OGO	第三管区海上保安本部 横浜海上保安局 巡視船のじま 航海士補 JUNIOR MARITIME SAFETY OFFICER, PATROL VESSEL NOJIMA, YOKOHAMA MARITIME SAFETY OFFICE, 3RD REGIONAL MARITIME SAFETY HEADQUARTERS, MARITIME SAFETY AGENCY	救急救助 (RESCUE)
永田 健 Mr. Takeshi NAGATA	国際協力事業団 青年海外協力隊事務局 管理課 STAFF, ADMINISTRATION DIVISION, SECRETARIAT OF THE JAPAN OVERSEAS COOPERATION VOLUNTEERS, JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)	業務調整 (COORDINATION)

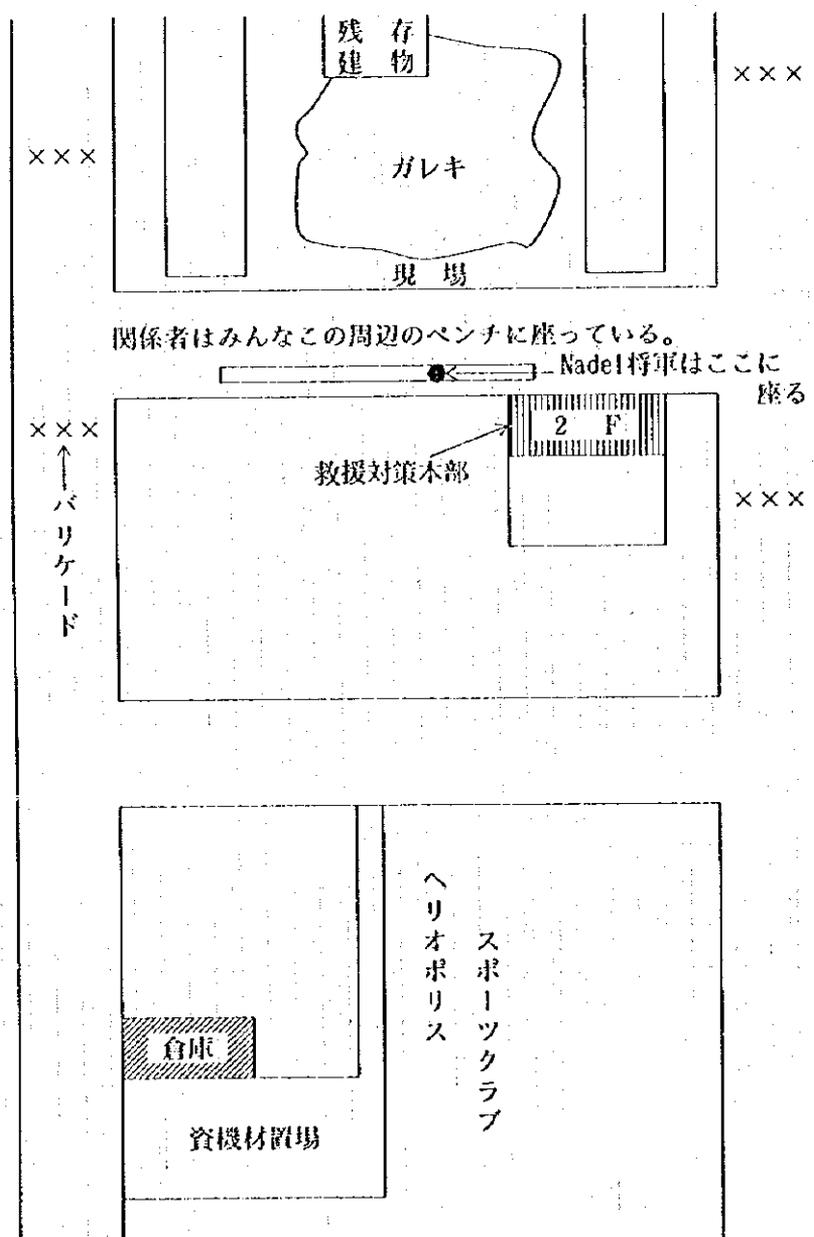
4. 派遣目的

- (1) エジプト政府の要請に基づき、国際緊急援助隊・救助チーム（JDR）を派遣して、災害現場で要救助者を捜索し、救助すること。
- (2) エジプト側の救助隊の求めに応じ、必要な協力を行うこと。

5. 活動場所

(1) 見取図

カイロ県ヘリオポリス市。見取図は、下記のとおり。



(2) 選定の経緯／理由

活動場所の選定についてはエジプト側と協議した結果、次の2点を担当することになった。

ア 災害現場の中で生存者がいる確率が高い残存ビル右部分から後部（正面より奥）を中心に
検索、探査。

イ 災害現場全域についてエジプト側が救出できない箇所を引き受ける。

(3) 他国の援助隊とのデマケ

ア ドイツ赤十字（民間組織）7名は10月29日から31日午後まで日中のみの活動。

活動場所の分担はなく災害現場全体を救助犬により検索し生存者2名を救出。

イ ハンガリアン・シビル・プロテクション（民間組織）5名は10月31日午前8時に災害現場
に到着。活動場所の分担はなく災害現場全体を救助犬により検索し11月2日午後5時まで、
日中のみの活動。

救助犬3匹のうち2匹が検索を行い、3名を発見。JDR、エ側と共同で救出したが3名とも
死亡確認。

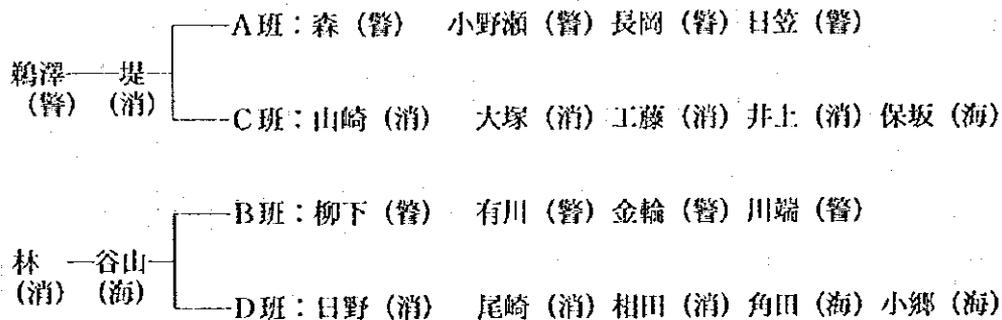
隊員の構成は登山家2名、女医1名、犬使い2名、救助犬3匹。

ウ 11月3日午後3時に我方が撤収したあと、メキシコ隊が到着したとの情報が入ったが、す
でに現場は瓦礫の除去と救出作業が終了していたため、救助活動は行わなかった模様。

6. 活動のローテーション

班の構成は次のとおり。

統括 隊長 班長



10月31日 (木)		11月1日 (金)			11月2日 (土)				
～12時	18時	4時	12時	20時	0時	4時	8時	12時	17時撤収
A	A		A		A				A
C	C		C		C				C
B		B		B			B		
D		D		D		D			

↑

活動時間数を
変更

7. 携行資機材の管理方法

- (1) 災害現場近く（約150メートル）の体育施設「ヘリオポリス・スポーツクラブ」の敷地と倉庫を借り受けた（エジプト側が手配）。
 - (2) 同クラブの敷地（一部露天、一部は布屋根付き）に携行資機材を置き、必要に応じて組み立て、活動場所に運んだ。資機材置場にはエジプト側消防関係者が2名配置され24時間体制で監視し、盗難を防いだ。
 - (3) 倉庫（約10畳程度）は隊員の個人装備（ヘルメット等）や食料（仕出し弁当）、水を置き、災害現場から引き揚げてくる隊員の休憩所とした。
- なお、携行機材リストについては巻末資料2参照。

8. 活動日誌

		(日本時間)
10月30日(水)	9:15	成田空港で結団式。 マスコミの取材あり。
	11:05	成田発(BA066)
		(以下、エジプト時間)
同日	23:10	カイロ着、日・エ マスコミの取材あり。
31日(木)	01:00~02:30	団長、警察、消防、海上保安の各副総括と隊長等計7名が災害現場を視察。その他の隊員は機材引き取り後ホテルに直行。
	02:10~03:10	作戦会議(於:ソネスタ・ホテル)で①班とローテーションの編成、②31日は、03:30~12:30の間全隊員で救助活動を行うことを決定。
	03:30~4:00	資機材の準備(於:ヘリオポリス・クラブ)
	4:00~	災害現場到着。災害現場は崩落した瓦礫が約30メートルの山を形成しており、国際緊急援助隊・救助チーム(以下JDR)はこの山の中に埋まっている住人を捜索し、救出する活動を開始。残存建物周辺を中心に「人命探査装置」で7か所、ファイバースコープで1か所検索。人体の発見なし。
	6:30	残存建物の左側の崩落したコンクリートの除去と鉄筋等を切断。
	8:45~9:30	周囲の活動を一旦停止し、「電磁波人命探査装置」で8か所を検索、生存波形なし。
	9:30~12:30	エンジンカッターで鉄筋切断、ファイバースコープで検索。
	12:30~15:00	残存建物上部の落下危険のある壁を切り落とすため、一旦全員退避。
	(12:30~A・C班が活動:以降8時間のローテーションを導入)	
	15:00~	検索再開。エ側はパワーショベル、ユンボを使って瓦礫を除去。
	16:00~	エ側消防隊より、瓦礫右側斜面で1時間かけても収容できない男性1名の収容について協力要請あり。
	16:50	レスキューツール、ストライカー、ロープ等を使用し <u>上記男性を収容。死亡を確認。</u>
	17:00~	エ側は射水しながら重機により瓦礫を除去。一方JDRは生活痕がある地点を重点的に捜索。
	17:40	<u>右側斜面で2名発見(男1名、小供1名)。死亡を確認。</u>
	17:50	<u>右側斜面で1名発見(女性)、収容。死亡を確認。</u>
	18:00~	B・D班に交替
	21:40	瓦礫斜面中央付近(やや右)で2名発見。 コンクリートに挟まれている1名をエ側消防隊と協力して収容を開始。

11月1日(金)

- 23:00 上記1名(男女不明)を収容。死亡を確認。
- 00:10 上記2人目の人を収容。死亡を確認。
- 00:35 正面で1名発見(男女不明)。
- 00:45 上記1名を収容。死亡確認。
- 01:30 エ側救援対策本部の要請により「電磁波人命探査装置」により検索開始(2か所)。
- 02:00 生存波形がなかったため、上記検索を終了。
- 02:00~04:00 残存建物上部の瓦礫撤去を含めた今後の作業方針につきエ側にアドバース。
-
- 04:00~----- A・C班に交替、エ側重機による瓦礫除去作業と平行して搜索活動を続行
- 04:30 正面右上4階の高さの斜面に1名発見(30歳前後、女性)、収容。死亡を確認。
- 05:30 1名発見(男女不明)、収容。死亡を確認。
- 07:30~08:30 残存建物4階を搜索するも人体の発見なし。
瓦礫中央部に空洞を発見、階段と判明するも人体の発見なし。
- 09:00~09:15 カイロ県消防長官ナデル将軍、和田団長が今後の活動方針をめぐり会談(於:災害現場の指揮官車両内)。
- 09:00~10:10 正面左に布団を発見し、レスキューツール、ストライカー等で瓦礫を除去するも人体の発見なし。
- 10:40 ハンガリー隊、2名発見(男女不明)、収容。死亡を確認。
- 11:00~12:00 右側1階の倉庫を搜索。削岩機で壁を破壊し、ファイバースコープで検索するも人体の発見なし。
- 12:00~12:30 エ側の要請により、正面に突出している鉄筋をレスキューツールにより切断(エンジンカッター2台使用)。
-
- 12:00~12:30 B・D班に交替
- 13:25 ファイバースコープを使用し、瓦礫中の穴を検索。
- 13:40 穴の中は異常なし。
- 14:55 右側斜面で1名発見(男女不明)、収容。死亡を確認。
- 15:16~16:25 左側斜面で1名、右側斜面で2名の合計3名発見(1名女性、2名は男女不明)。うち1名についてエ側の要請によりストライカー等を用いて収容。全員死亡を確認。
- 16:25 右側斜面で1名発見(女性)、収容。死亡を確認。
ストライカー2丁で左側斜面の収容を支援。
- 17:00~17:50 左右斜面で2名発見(男女不明)、収容。死亡を確認。
- 17:34 エ側の要請により、ライト2器貸し出し。
- 17:40 エ側の要請により、右側空洞内をファイバースコープで検索、人体の発見なし。

18:10 左側斜面1階室内をファイバースコープで検索、反応なし。
 19:30 エ側の要請により、ストライカー1丁貸し出し。
 19:45 左斜面の内部確認、右斜面穴からファイバースコープで検索、人体の発見なし。
 19:00~20:00 左右斜面で3名発見(男女不明)、収容。死亡を確認。
 20:20 右側斜面で1名発見(男女不明)、収容。死亡を確認。

 20:25~ A・C班に交替
 22:25 中央斜面で1名発見(女性、30歳前後)、収容。死亡を確認。
 22:37 中央斜面で1名発見(小供)、収容。死亡を確認。
 検視官クラッツ博士によると、本時点までに災害発生以来55遺体を収容。

11月2日(日)

00:00 休養時間を確保するためローテーションの一部を変更し、A班はホテルへ(次回2日正午出動)、C班は活動を継続。
 1:00~1:20 ナデル将軍と鶴澤副総括及びAC班班隊長が残存建物内部及び周囲を視察点検のうえ対処方針を協議。
 2:05 右側斜面で1名発見(男性、35歳前後)、収容。死亡を確認。
 3:10~3:45 左側斜面で1名発見(男性、25歳前後)、C班がレスキューツール、ストライカー、クリッパーを使用して収容。死亡を確認。

 4:00~ D班に交替
 5:50 右側斜面で1名発見(男女不明)、収容。死亡を確認。
 7:12 右側斜面で1名発見(女性、19歳)、収容。死亡を確認。
 7:25 右側斜面で1名発見(女性、30歳)、収容。死亡を確認。
 8:00 B班出動
 8:23 右側斜面で1名発見(男女不明)、収容。死亡を確認。
 8:40 右側角で1名発見(男女不明)、収容。死亡を確認。
 10:10 D班作業終了、ホテルへ。
 10:45~ 左側斜面で遺体らしき物体を発見、レスキューツールで付近の鉄筋を切断。
 11:08 上記は人間ではないことが判明。
 11:25 エ側の要請により、左側斜面の鉄筋をレスキューツールで切断。
 11:50 再度エ側の要請により、鉄筋をレスキューツールで切断。

 12:00~ A、C班交替
 前面の瓦礫がほぼ取り除かれた状態。
 12:15~ エ側の要請により、右奥の鉄筋をレスキューツールで切断。
 13:00~13:30 右奥に空洞を発見。JDRが目視により内部を探索するも人体の発見なし。

- 13:30～ 正面中央部付近でハンガリーチームの救助犬が反応。男性1名発見
するも、エ側救出困難なため JDR がレスキューツール、ストライ
カーを使用し作業。
- 13:45 上記1名を収容。死亡を確認。
- 13:50 正面付近で転落負傷したエ側の消防隊員を救急車に搬送。
- 14:00～14:20 再度右部分の鉄筋をレスキューツールで切断。
- 14:40～15:10 正面中央よりの地点に空洞発見、鉄筋をレスキューツールで切断し、
ファイバースコープにより内部を検索するも、人体の発見なし。
- 15:30～16:10 JDR の活動収束について協議（於：エ側救援対策本部）。
出席者：ナデル将軍ほかエ側4名、日本側は坂場公使、和田団長、
鶴澤副総括、林副総括、谷山副総括、堤 AC 班長、永田調整員ほか
3名。
① JDR は17:00をもって現場の活動を終了する。
②但し、3日(日)正午までホテルで待機することについて合意。
- 17:00 災害現場の活動終了。
- 20:00～ エ側が JDR、日本側関係者を茶会に招待。感謝の念を表明。日本側
関係者に記念品を贈呈。

11月3日(日)

- 9:00 ホテルロビーに集合。
- 9:30～11:30 資機材収納、供与機材を分別。
- 13:00～ 災害現場で JDR 隊員全員、大使館および JICA 事務所関係者が一同
に会し、災害で死亡した犠牲者の冥福を祈り、献花して1分間黙禱。
- 13:15 エ側救援対策本部カーメル副知事を訪問し、和田団長より、JDR の
活動の総括報告。同副知事よりは、連日の精力的な活動に対し深く
感謝する旨の謝意表明あり。
片倉大使より JDR が携行した救助用機材の一部をエ側に供与、(目
録手交)。
- 14:30～17:00 エ側救助関係者に供与機材の使用方法を説明。

11月4日(月)

- 8:30 エ側救助関係者に供与機材の使用方法を説明。

11月5日(火)

- 8:45 カイロ発

11月6日(水)

- 11:35 (日本時間) 成田着(BA007)帰国。
12:00 成田空港内で解団式。

9. 撤収

(1) 撤収時期の判断と決定理由

今回派遣された JDR の救助活動は、崩壊したビルの瓦礫の山の中に埋った被災者を救出することにあつた。この瓦礫の山は、発災後 6 日目に当る 11 月 2 日(土)17:00 頃地表レベルまで完全に除去されたために、救助活動は自動的に終了し、JDR の撤収の時期も定まった。

(2) エ側との協議内容

日時：11月2日(土)午後3時半から午後4時10分

場所：救援対策本部

出席者：日本側：坂場公使、和田団長、鶴澤副総括兼隊長(警察庁)、林副総括(自治省消防庁)、谷山副総括(海上保安庁)、ほか。

エ側：消防長官ナデル・ノアマン將軍、プリゴール・ザガリア・メシェリフ消防局長
アブデル・ラジク・アメール消防隊長
アームド・ワバ・ナスール化学処理隊長

協議内容：瓦礫除去作業が 2 日夕ほほ終了する見通しとなったことを踏まえ、JDR は 2 日午後 5 時をもって救出作業を終了する、但し万一に備えて 3 日正午まで待機することにつき合意に達した。

また、2 日午後 1 時から災害現場で犠牲者を悼んで献花と黙禱を行い、その後救援対策本部に JDR 代表と片倉大使及び坂場公使が挨拶に赴き、機材供与を行うことを決めた。

III 活動の成果

1. エジプト側と協力して32遺体を収容

JDR は、昼夜を徹して精力的な救助活動を展開して、生存者の捜索に当たったが、ビルの建築資材として用いられていた砂が崩落したコンクリート塊の隙間を埋め尽くしたため、瓦礫の山の中に埋った被災者は早い段階で圧死若しくは窒息死したものと見られ、生存者の発見には至らなかった。しかしながら、エ側の救助チームと協力して、32名の遺体を収容した。

また、エ側は生存者の有無を確認しながら瓦礫の山を取り崩す方法で救助作業を進めたが、JDR はハイテク機器を用いてエ側の救助作業を補完し、促進することに貢献した。

更に、エ側救助隊と一体になって、ほこりにまみれて、徹夜で救助活動に当り、エ側救助隊が難しい作業に直面すると率先して支援を行ったことは、現場のエ側救助関係者より高い評価を受けた。

2. 救助用機材の供与と技術指導

救助用機材の一部をエ側に供与するとともに、使用方法についてエ側に技術指導を行い、同国の今後の救助活動の向上に貢献した。

供与した機材は以下のとおり。

レスキューツール	1セット
削岩機	2台
エアージャッキ	1台
ファイバースコープ	1台
地中音響探知機	2台
エンジンカッター	4台
レスキュー用資機材	1式

3. 日本とエジプトの友好関係を促進

JDR の活動ぶりは連日、現地の新聞(6日間で30件以上)、ラジオ、テレビで報道され、多くのエジプト国民に日本人が危険な災害現場で額に汗を流してエジプト人の救助に当たってくれていることが知れわたったため、道行く市民からも隊員に絶え間ない謝意が寄せられた。これは日、エ両国の友好関係の促進に貢献したものと考えられる。

IV 隊員の生活状況

1. 宿舎

国際緊急援助隊は、海外の被災地に派遣されるので、快適な宿舎に宿泊が確保出来るとは限らない。しかし、今回の災害は、ビルの倒壊という局地的な災害であったために近代的な設備が整った風呂付きのホテルに宿泊することが出来たので、生活はやり易かった。

2. 食事・水

海外の被災地によっては、安全性や嗜好の点で、日本人の口に合う食べ物が手に入り難い場合があるが、今回は勤務中の隊員は災害現場近くの控え所で JICA が用意したサンドイッチや和食の弁当、おにぎりを摂り、非番の隊員はホテルの食堂を利用することが出来たので、食事については特に問題がなかった。

また、水についてもボトル入りの衛生的な水が確保出来た。

3. 災害現場での活動

災害現場は狭い所に救助関係者が群がって騒然としており、初日は勝手が分からないまま、JDR は、災害現場の右手裏側の部分を任せ、独自の方法で生存者の捜索を行った。

2日目の昼以降は、エ側の要望もあって、JDR はエ側の瓦礫除去作業と連携して生存者の捜索を行うことになった。エ側は、災害現場に詰めかけて作業の進捗状況を見守っていた被災者の近親者に対する配慮から、瓦礫取り崩し作業中、少しでも人が埋まっていそうな徴候があると、直ちに作業を中断して、JDR (時にはハンガリーの救助犬チーム) に捜索を依頼して来たので、JDR の活躍場面は多かった。しかし、エ側が作業中は、傍らで待機を余儀なくされたのは辛かった。これは、災害現場が狭く限られており、また、JDR は、エ側が行う救援活動を支援することが目的である以上、止むを得なかったと言える。

4. 勤務条件

カイロに到着した30日(水)の夜は、空港からホテルに直行、打ち合わせを行ってから、直ちに災害現場に赴いて、全員そのまま31日(木)の正午まで生存者の捜索を行ったため、ホテルで旅装を解いたり、旅の疲れや時差ボケを癒す暇がなかった。その後もローテーション制が導入されて、8時間おきに昼と夜の勤務が続いたために、隊員は疲労回復と生活のリズムを掴むのに苦勞した。

また、このように旅の疲れや時差ボケを癒す間もなく、言語や習慣の違い、災害現場に不慣れな状態で、いきなり危険な災害現場で救助活動に突入したため、勝手が分からないままに、かなりの緊張感を強いられた。その上、ホテルが改築工事中であったために、ローテーションで昼に非番になったグループは、騒音に妨げられて十分な睡眠を取ることが出来なかった。このような厳しい勤務条件に耐えることが出来たのは、活動期間が短かったためで、同一条件で長期間の活動は困難と思われる。

5. 派遣組織間の交流

JDR は、5つの組織の混成チームで、組織間の仕事のやり方などの違いなどもあって、単一組織で派遣される場合に較べて統一に欠ける惧れもあったが、今回は、比較的連携がうまく行ったと思われる。

但し、救助活動を含め、原則として組織別に編成した班を単位として行動したところ、ローテーション制の導入により班が違ふと顔を合わせる機会が少なく、かつ派遣期間が短かったこともあって、同じ班で、一緒に行動した者以外の隊員間の交流が今一つ深まりに欠けたのは、止むを得ないと思われる。

6. その他

隊員の多くはローテーションによる昼夜の勤務で疲れていたこと及びホテルの周囲に商店街などもなかったこともあって、非番の時は殆どホテル内（専ら疲労回復のため自室で睡眠）で過ごした。

なお、JICA 事務所でユニフォームの洗濯や、写真の現像などを引き受けてくれたことはありがたかった。

V 隊員の健康管理

1. 基本的には、各隊員が独自に自己の健康を管理したが、万一に備えて大使館の医務官と看護婦さんに待機して頂いていたのは心強かった。
2. 隊員の健康管理で、問題になると考えられたのは、救助活動に伴う外傷であるが、この点については、隊員の自覚が行き渡っていたせいか、奇跡的に隊員の中で外傷を負った者は一人もいなかった。
3. 宿舎が風呂付きの近代的な設備を持ったホテルであり、また、衛生的な食事、水（ボトルドウォーター）が確保出来たので、消化器系の感染症に罹る可能性は低く、また、風土病その他の感染症もなかった。
4. 隊員の疲労については、上記IV隊員の生活状況でも言及した通り、ローテーションや任務の性質等から、睡眠が充分にとれなかったこともあって厳しいものがあつたが、活動期間が短かったため、何とか切り抜けることが出来た。
5. なお、JICA 事務所が隊員に配布した、JICA の出張者や専門家用の「エジプト滞在のしおり」が役に立った。

VI 現地の受け入れ・協力体制

1. 大使館

- (1) 災害発生後、直ちに大使館の領事班が、同災害に巻き込まれた邦人の有無を調査すると共に、災害の様態を調査。
- (2) 片倉大使指揮の下、坂場公使及び大使館経済班（経済協力も担当）が中心になり、エ外務省関係部局、カイロ県知事室及びエ側救援対策本部と、わが国の国際緊急援助隊・救助チーム（以下 JDR）の受け入れ希望の有無、及び受け入れる場合の体制（通関、免税許可、入国審査手続き等を含む）につき協議。
- (3) 大使館員が JDR を空港に出迎えた後、同日深夜、片倉大使、坂場公使等関係者が災害現場で JDR を出迎え。エ側関係者と JDR の救助活動の進め方につき協議。
その後、翌朝まで JDR の救助活動に対する支援を続行。救助活動が軌道に乗った時点で、08：00～14：00及び14：00～20：00の2班交代体制（別添1）で、大使館、災害現場及び災害現場前のエ側救援対策本部に1名づつ大使館員を配置し、必要に応じて24時間体制で JDR の救助活動を記録、エ側救援対策本部と協議を行いつつ JDR の活動を支援。
- (4) 機材供与の決定・供与手続き（免税措置を含む）につき、エ側関係者・外務省と協議の上、供与式をアレンジ。
- (5) 対プレス（現地、邦人及び第三国）については、大使館広報班が一元的に対応し、JDR の救助作業の妨げにならない範囲で、取材、記者会見をアレンジすると共に、積極的に JDR の救助活動を広報。
- (6) なお、片倉大使は、JDR に夕食・昼食を差し入れられ、また、カイロ出発前日の4日夜、公邸において隊員を慰労された。

2. JICA エジプト事務所

- (1) 所長以下事務所員4名（尾口次長はフランス事務所出張中のため初めの4日間は不在）と現地職員8名、事務所契約運転手4名、臨時通訳3名、臨時契約運転手4名、連絡員として技術協力専門家2名（大川専門家、上村専門家）が協力。（別添2）。
- (2) 隊員等の移動に必要な車両8台を借り上げ、ソネスタ・ホテル連絡室、JICA事務所、ヘリオポリス・スポーツクラブ、救援対策本部の4カ所に連絡員を24時間体制で配置。
- (3) 昼食、夜食、水等について当地の日本料理屋に仕出し弁当を依頼し、手配。
- (4) カイロ国際空港の機材通関と隊員の入国審査についても全面手配。
- (5) 持ち帰り機材搬出と隊員の出国審査についても全面手配。
- (6) ソネスタ・ホテル連絡室においては、写真現像や本部連絡など各隊員のリクエストに対応。

3. エジプト政府

- (1) カイロ国際空港の機材通関と隊員の入国審査について全面協力。
- (2) エ側救援対策本部は、救助作業につき、日本側の助言を十分尊重し、エ側の作業を調整。
- (3) 2日の犠牲者の慰霊式には、日本側関係者（他国関係者を含まず）のみを招待し、共に献花を行った。
- (4) 2日午後8時から日本の協力に対する感謝の茶会をソネスタ・ホテルで開催し、日本側を招待。
- (5) 資機材の管理について消防関係者が24時間体制で警備。

別添1

大使館緊急援助隊関係体制及び事務内容

現場：援助隊とエジプト側の通訳等の便宜を図り、正面ビルにある対策本部と適宜無線で連絡を取る。

救援対策本部：災害現場と大使館のリエゾン及び救助活動の記録作成（万一に備え車載無線及び携帯電話のある車を配備）。

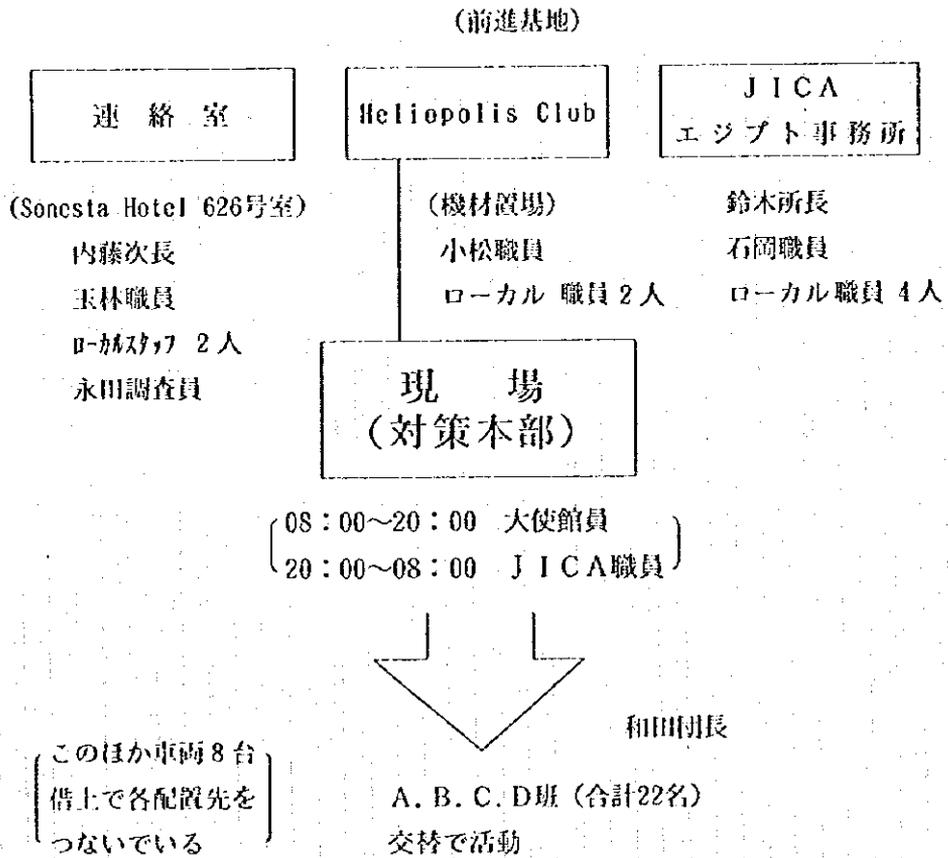
大使館：本省、大使・公使等及び関係方面とのリエゾン（連絡車一台配備）。

プレスに関しては基本的に広報班が一元的に対応。

後町医務官及び越村看護婦は、緊急時に備え連絡先を必ず大使館のリエゾンに残しておく。その他経済班の関係書記官は自宅で待機。

	援助現場	対策本部	大使館
31日(木) 1班 2班	谷垣 戸谷	伊藤 田中	八尋 中野
1日(金) 1班 2班	井上 谷垣	八尋 伊藤	淀野 園野
2日(土) 1班 2班	戸谷 井上	斉藤 中野	伊藤 田中
3日(日) 1班 2班	谷垣 戸谷	越村 園野	八尋 田中
4日(月) 1班 2班	井上 谷垣	伊藤 八尋	園野 中野

JICA人員配置図



VII 団長所感

和田章男

1. 日本とエジプトの友好関係の進展に貢献

10月27日(日)、午後6時25分、エジプトのカイロで12階建てのビルが倒壊し、崩落した瓦礫の山の中に88人の住人が埋まるという災害が発生した。この災害に対し、日本政府は、エジプト政府の要請に応じて、国際協力事業団(JICA)から24人の国際緊急援助隊・救助チーム(以下JDR)を派遣した。JDRは、災害現場でエジプト側と協力して懸命に生存者の捜索に当たったが、昼夜を徹した捜索活動も生存者を発見するには至らなかった。

しかし、長旅の疲れをものともせず、危険で不慣れな災害現場で、昼夜を徹して汗と埃に塗れて生存者の捜索に当たった隊員の姿はエジプト官民から好感を持って迎えられ、エジプト政府関係者のみならず道行く見知らぬ沢山のエジプト人から夥しい数の感謝の言葉を頂いた。また、JDRに対する現地の報道よりも概して好意的であったところから、私は今回のJDRの派遣は、日本とエジプトの友好関係の進展に大きく貢献したと考える。

2. 犠牲者の冥福を祈りたい。

警察、消防、海上保安庁、JICAの職員と、外務省から団長として私が参加した今回のJDRは、30日(木)夜、カイロに到着、ホテルで旅装を解いたのち、直ちに災害現場に急行した。この時点でエジプト側の救助活動は3日間が経過していた。この救助活動は、JDRが加わって更に3日間にわたり続けられ、災害発生後6日目に当たる11月2日(土)の午後5時、崩落したビルの瓦礫が全て取り除かれて終了するに至った。この6日間に被災者のうち、24人が自力で脱出ないし救助されたが、64人が遺体で発見されるという痛ましい結末になった。縁あって本件災害の救助活動に関与した者の一人として、ここに犠牲者のご冥福を心からお祈りしたい。

3. 隊員は精一杯頑張った。

JDRは、カイロに到着してから一睡もすることなく、31日(金)は正午まで全員が徹夜で活動した。その後はローテーションを組み、昼夜を徹して生存者の捜索に懸命の努力を傾けたが、JDRが活動した3日間に32人の遺体が収容されたものの、生存者を発見するには至らなかった。この結果は、私にエジプトまでやって来たことの意義について自問させ、一種の挫折感を味わせた。しかし、私は生存者を発見出来たかどうかという結果もさることながら、最も大切なことは、あのような状況の中で、各隊員が持てる力を十分に発揮して、生存者の発見に精一杯頑張ったことであると考えている。

4. 大きかった大使館の役割

今回の災害は、一つのビルが崩壊したという一見何処にでもある災害であるが、エジプト政府がわが国にJDRの派遣を要請した背景には、片倉大使の決断と、坂場公使のエジプト側に対する積極的な働きかけがあった。このような決断と働きかけがなかったならば、今回のJDRの派遣は無かったと考える。

また、エジプト政府との折衝等、重要な業務は全て大使館が行った。この点で、本件を担当された伊

藤書記官の苦労は大きかったと思う。更に、今回の JDR の活動に関する現地および日本国内の報道が多く、概して好意的であったのは、大使館の大内書記官の広報マインドに負うところが大きいと考える。その他の大使館員も、何らかの形で JDR に関与したものと承知している。このように、今回の JDR の派遣が成果を上げたのは、大使館の活動によるところが大きかったと考える。

5. ロジは大使館と JICA に依存

また、今回の災害はビルの崩壊という局地的な災害であったために、JDR のロジは大使館と JICA に全面的に依存した。JDR の活動は現場仕事であり、食事や移動手段の手配等ロジの支援が無ければ効果的な活動を行うことが出来ない。このようにロジは致命的に重要であるが、現地でも日本でも脚光を浴びたのは JDR の隊員であり、大使館員や JICA の職員が表舞台に立つことは殆どなかった。私は今回の JDR の成果の半分は、このように労多くして表に出ることが少なかった大使館員や JICA 職員の努力の賜物であると思っている。

6. 団長として心がけたこと

最も心がけたことは、エジプト側と緊密に協力して、JDR の目的である人命救助の結果を出すことであった。また、活動開始からカイロ出発までに起こり得る事柄を自分なりに想像して全体のシナリオを描き、その中で団長としての役割を考えて対応した。

また、隊員の疲労の蓄積による体力や注意力の低下が安全に及ぼす影響について細心の注意を払い、判断を誤らないように心がけた。

この他、関係者をエジプト側関係者(被災者、政府要人、現場関係者、マスコミ、一般国民)、大使館と JICA 関係者、日本のマスコミ、隊員の4つのカテゴリーに分けて、それぞれの特性を意識して対応を変えたことも良かったと思う。

なお、救助活動が瓦礫が完全に除去されるという「すっきりした形」で終了し、JDR の撤退のタイミングについて悩む必要がなかったことは、運が良かったとしか言いようがないと思う。

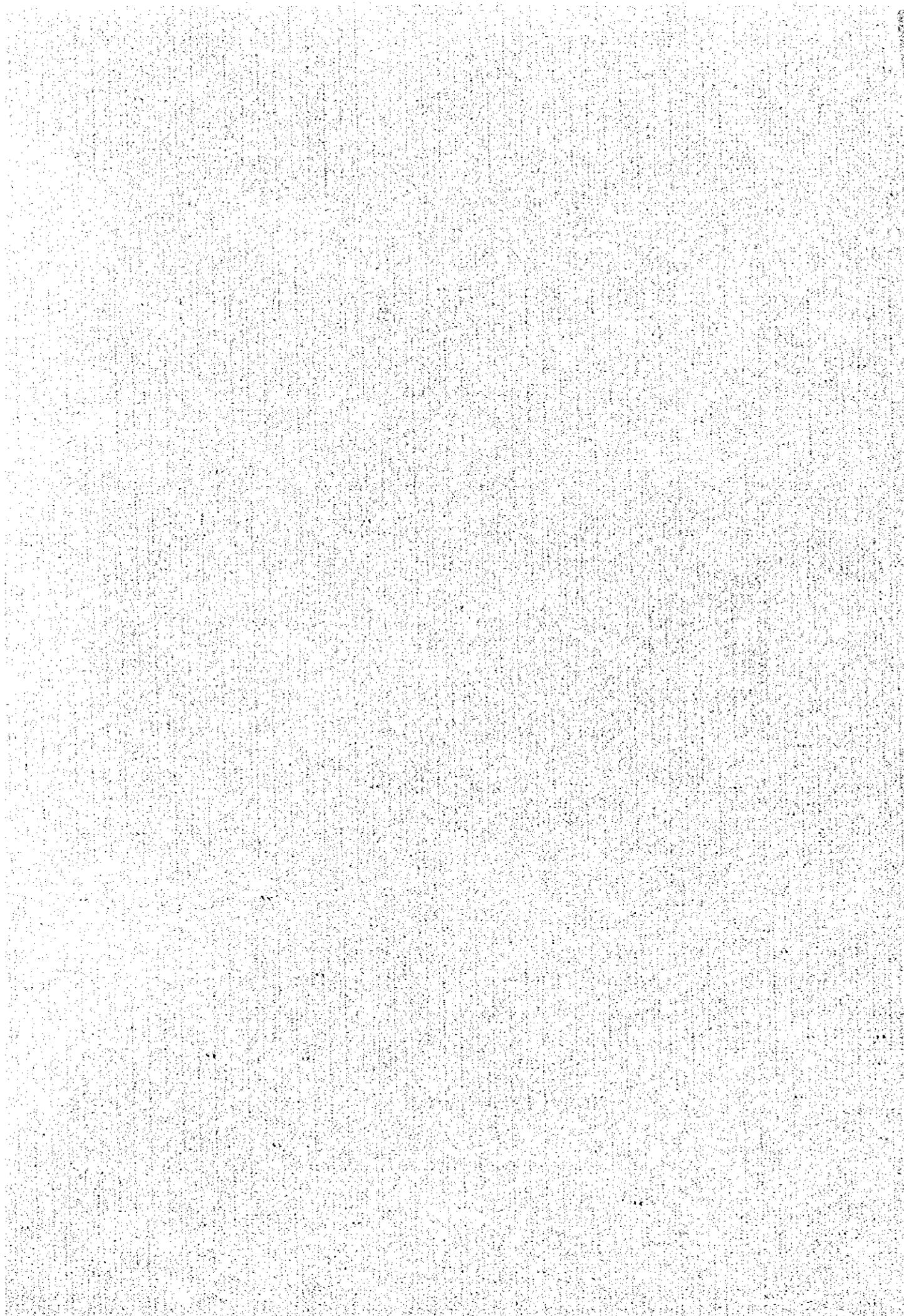
7. 災害援助で世界に貢献

今回の JDR の24人の隊員中、実に20人が阪神・淡路大震災で救助活動に従事した経験を持っていた。これなども自然災害が多いわが国には、災害援助の技術や知識、経験を持った人材が豊富に存在する証拠であると思う。また、今回の救助活動では、携行した「電磁波人命探査装置」などのハイテク機器も大きな威力を発揮した。このようにわが国には災害救助のための優れた人的、物的資源があるので、今後ともこの分野で国際社会に大きく貢献出来ると考える。

8. より優れた国際緊急援助体制を目指して

最後に、どのように上手く行った物事にも、一つや二つの反省点があり、そのような反省点を改善して行くところに、大きな進歩が約束されると思う。今回の JDR の活動についても考えさせられた点が幾つかあった。その一部については、既に関係者に伝えて善処をお願いしてある。そのような反省点の改善により、より優れた国際緊急援助体制を目指して行きたいと願っている。

卷末資料



巻末資料 1

現地状況報告 (JICA 事務局作成)

現地状況報告

平成 8 年 10 月 31 日

午前 8 時 45 分

- 宛先： 1. 外務省国際緊急援助室
2. 警察庁国際部国際第一課
3. 消防庁救急救助課
4. 海上保安庁総務部国際課

JICA 国際緊急援助隊事務局

エジプト・ビル崩壊被害救済国際緊急援助隊 (その 1)

1. JDR は、30 日夜定刻にカイロに到着。携行機材は、引き取りを終え、ソネスタホテルへ輸送、同ホテルにて数量・内容を確認中。(空港では、NHK、TBS 他現地マスコミ各社の取材あり。)
2. ホテルソネスタに到着した隊員のうち、警察、消防、海保の各隊長及び隊員各 1 名が、和田団長及び大使館坂場公使とともに先遣隊として現場に急行した。他の隊員はホテルで待機中。
3. その他の情報
 - (1) 被害状況 (30 日 15 時現在)
死者 26 名、負傷者不明、行方不明 80~100 名、自力脱出 15 名、救出 24 名
 - (2) 他国の援助動向
29 日よりドイツ赤十字の救助隊 7 名及び救助犬が活動中、29 日 2 名を救出。
 - (3) 見とおし
現場は機材不足等で救出活動が難航しており、さらに数日を要する模様。

*本文の時間はいずれも現地時間

以 上

- 宛先：1. 外務省国際緊急援助室
2. 警察庁国際部国際第一課 □ 警視庁へ転送願います。
3. 消防庁救急救助課 □ 東京消防庁、大阪市消防局、札幌市消防局、松戸市消防局へ
転送願います。
4. 海上保安庁総務部国際課

発信元：JICA 国際緊急援助隊事務局

エジプト・ビル崩壊被害救済国際緊急援助隊（その2）

(JICA 永田調整員よりの連絡要旨)

1. 先遣隊が戻ったので、ホテル内の JICA 連絡室において、午前2時10分より作戦会議を行い、3時10分に全員でホテルを出発、JDR 前進基地(現場より約300メートルの体育館(ヘリオポリスクラブ)で、携行資機材が保管されている)で、必要な資機材を携行し、現場に急行した。

2. 作業手順は、以下のとおり。

31日午前中は全員で、ファイバースコープ、音響探知器等を使い生存者の確認を行う。午後からは以下のローテーションで交代で救出活動にあたる。

- A班 (警) 森、小野瀬、長岡、日笠
 - B班 (警) 柳下、有川、金輪、川端
 - C班 (消) 山崎、大塚、相田、井上
 - D班 (消) 尾崎、田野、堤、工藤
 - E班 (海) 谷山、角田、小郷、保阪
- (警) 鶴澤、(消) 林は全班への指揮・支援を行う。

3. 大使館・JICA の現地支援体制

□エ側救援対策本部(現場前のテント)

昼は大使館員、夜は JICA 事務所員が交代で詰める。

□JDR 前進基地(現場から約300メートルの体育館ヘリオポリスクラブ)

JICA 事務所小松所員

□ JICA 連絡室 (隊員が宿泊しているソネスタホテル)

JICA 事務所内藤次長、玉林所員

□ JICA 事務所

JICA 事務所鈴木所長、石岡所員

4. その他の情報

(1) 現場の状況

建物の6分の1位しか残っておらず、あとは瓦礫の状態。鉄筋が少ないため、エ側が残った部分に筋交いを入れているが、救出活動には危険が伴う。有毒ガスは現在のところ発生していない。

(2) 他国の援助動向

29日より活動しているドイツ赤十字の救助隊は、機材を持たず、救助犬と人力で対応しており、効率が著しく悪い様子。

*本文の時間はいずれも現地時間

以 上

- 宛先：1. 外務省国際緊急援助室
2. 警察庁国際部国際第一課 ⇨ 警視庁へ転送願います。
3. 消防庁救急救助課 ⇨ 東京消防庁、大阪市消防局、札幌市消防局、松戸市消防局へ転送願います。
4. 海上保安庁総務部国際課

発信元：JICA 国際緊急援助隊事務局

エジプト・ビル崩壊被害救済国際緊急援助隊（その3）

(JICA 永田調整員よりの連絡要旨)

1. 10月31日の活動状況

午前3時30分～4時 レスキュー用機材の準備・装填

午前4時～午前6時 発掘作業とともに、残存建物を中心に5ヵ所で電磁波探査、1ヵ所でファイバースコープ探査を行ったが、これまでのところ生命反応なし。

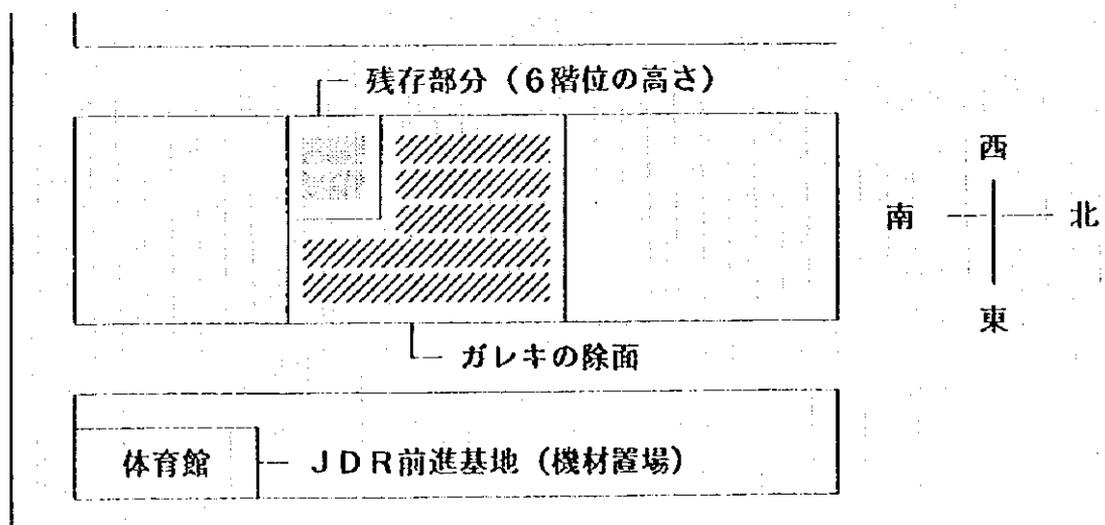
午前6時30分～ エンジンカッターで鉄筋の除去を開始。

以上22名の隊員で一丸となって対処。隊員の士気は極めて高い。

12時以降は、ローテーションで救助活動を行う。

*本文の時間はいずれも現地時間

[現場見取図]



現地状況報告

平成8年10月31日
午後9時5分

- 宛先：1. 外務省国際緊急援助室
 2. 警察庁国際部国際第一課 ⇨ 警視庁へ転送願います。
 3. 消防庁救急救助課 ⇨ 東京消防庁・大阪市消防局・札幌市消防局、松戸市消防局へ転送願います。
 4. 海上保安庁総務部国際課 ⇨ 羽田特殊救難基地・巡視船「のじま」へ転送願います。
 5. JICA エジプト事務所

発信元：JICA 国際緊急援助隊事務局

件名：エジプト・ビル崩壊被害救済国際緊急援助隊（その4）

日本時間午後9時、JICA 永田調整員よりの連絡を以下のとおり報告します。

1. 10月31日の活動状況

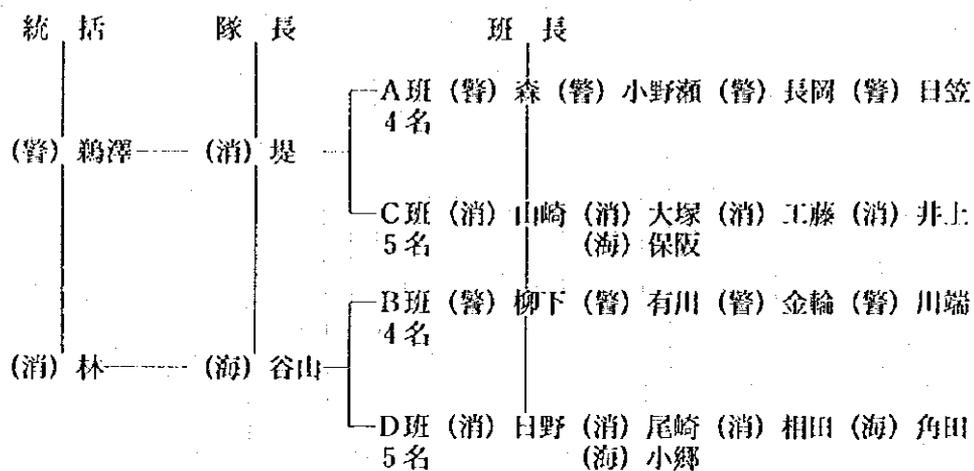
- 午前8時45分～9時30分 周囲の活動全てを中止し、電磁波探査したが生存者発見できず。
 削岩機、ストライカー、つるはしでコンクリートを破壊。
 午前9時30分～12時 エンジンカッターでえ鉄筋切断及びファイバースコープによる検索。
 午後12時30分～ 残存建築上部を解体するため一旦全員退却。
 その後A・C班が救助活動継続中。

現在のところ、生存者・遺体ともに発見できず

2. ローテーション表

月日	10月31日(木)			11月1日(金)			11月2日(土)			11月3日(日)			11月4日(月)		11月5日(火)
時間	8	12	18	4	12	20	4	12	20	4	12	20	4	12	
A班	○	○		○		○		○		○		○	○		
C班	○	○		○		○		○		○		○	○		
B班	○		○		○		○		○		○			○	
D班	○		○		○		○		○		○			○	
															帰国

3. シフト表



*第2報にて、A～E班の5シフトと報告したが、生存者の救助可能性が刻一刻低下していることから、活動の密度を高めるため、A～D班の4シフトとした。

*本文の時間はいずれも現地時間

- 宛先：1. 外務省国際緊急援助室
2. 警察庁国際部国際第一課 ⇨ 警視庁へ転送願います。
3. 消防庁救急救助課 ⇨ 東京消防庁・大阪市消防局・札幌市消防局、松戸市消防局へ
転送願います。
4. 海上保安庁総務部国際課 ⇨ 羽田特殊救難基地・巡視船「のじま」へ転送願います。
5. JICA エジプト事務所

発信元：JICA 国際緊急援助隊事務局

件名：エジプト・ビル崩壊被害救済国際緊急援助隊 (その5)

日本時間11月1日午前2時30分、JICA 永田調整員及び(消) 堤隊長よりの連絡を以下のとおり報告します。

1. 10月31日の活動状況

- 午後3時～ パワーシャベル、ユンボを使って瓦礫の排除と検索
午後4時50分 現地消防隊が1時間かかって救出できない男性1名(40歳位)を遺体で救出
午後6時～ B、D班に交代

2. 今後の活動方針

困難な状況下で男性1名を救出したことで、エ側救助隊から大変感謝され、その後も協力を依頼されていることから、今後は容易な救助はエ側救助隊に任せ、困難なものを日本隊が行う方針。

3. その他の情報

ハンガリーの援助隊(男性2名、女性3名、救助犬3匹)が参加している。

4. 次回の定時報告は11月1日午前6時(日本時間午後1時)を予定。

*本文の時間はいずれも現地時間

- 宛先：1. 外務省国際緊急援助室
2. 警察庁国際部国際第一課 ⇨ 警視庁へ転送願います。
3. 消防庁救急救助課 ⇨ 東京消防庁・大阪市消防局・札幌市消防局、松戸市消防局へ転送願います。
4. 海上保安庁総務部国際課 ⇨ 羽田特殊救難基地・巡視船「のじま」へ転送願います。
5. JICA エジプト事務所

発信元：JICA 国際緊急援助隊事務局

件名：エジプト・ビル崩壊被害救済国際緊急援助隊（その6）

日本時間11月1日12時30分、JICA 永田調整員及び(海)谷山隊長よりの連絡を以下のとおり報告します。

1. 活動状況

- | | |
|----------|--|
| 31日18時～ | 重機による土石の排除を行い、生活痕にある場所では救助犬を入れて行方不明者を搜索。 |
| 21時40分頃 | 瓦礫斜面中央付近で2遺体を発見、コンクリートに挟められていたため埃救助隊の作業が困難であったため、ストライカー、レスカスを使い、これに協力。 |
| 22時40分 | 再び重機進入。 |
| 23時 | 子供1名を揚収。 |
| 11月0時10分 | さらに1名揚収。 |
| 0時30分～2時 | 現地対策本部からの要請により電磁波人命探知器による探査を再開。 |
| 2時～4時 | 重機を用いた上部撤去を行う。 |

2. 成果

- (1) これまで、エ救助隊と協力して41の遺体を揚収したが、事故発生後60時間以上がたっている現在、生存者の発見はなし。
- (2) 残存物の除去等で日埃双方の連携プレーが功を奏している。また比較的容易な作業をエ救助隊が行い、難易な作業をJDRが行っていることで、高い評価を受けている。

3. 今後の活動方針

現状では活動の中心が遺体の収容作業になっており、また隊員の疲労度も高くなってきていることから、今後はローテーション等の活動体制の見直しを行う予定。

*本文の時間はいずれも現地時間

以 上

- 宛先：1. 外務省国際緊急援助室
2. 警察庁国際部国際第一課 ⇨ 警視庁へ転送願います。
3. 消防庁救急救助課 ⇨ 東京消防庁・大阪市消防局・札幌市消防局、松戸市消防局へ転送願います。
4. 海上保安庁総務部国際課 ⇨ 羽田特殊救難基地・巡視船「のじま」へ転送願います。
5. JICA エジプト事務所

発信元：JICA 国際緊急援助隊事務局

件名：エジプト・ビル崩壊被害救済国際緊急援助隊（その7）

日本時間11月1日10時50分、JICA 永田調整員及び（警）長岡隊員よりの連絡を以下のとおり報告します。

1. 活動状況

- 1日(日)4時～4時30分 重機による作業と手作業を併用。
4時30分 正面右上4Fの高さから1遺体発見（30歳女性）。
5時30分 1遺体発見。
7時30分～8時30分 現存部分4Fに侵入するも発見者なし。
瓦礫中央部に空洞を発見、階段と判明するも発見者なし。
9時30分～10時10分 正面上から布団を発見し、レスキューツール、ストライカー等で瓦礫を除去したが、発見者なし。その後、ハンガリー隊の搜索犬が活動するも発見者なし。
10時40分 ハンガリー隊2遺体発見。
ファイバースコープにより検索するも発見者なし。
12時～12時30分 現地消防の依頼により、正面に突出している鉄筋をレスキューツールにより切断。

2. 成果

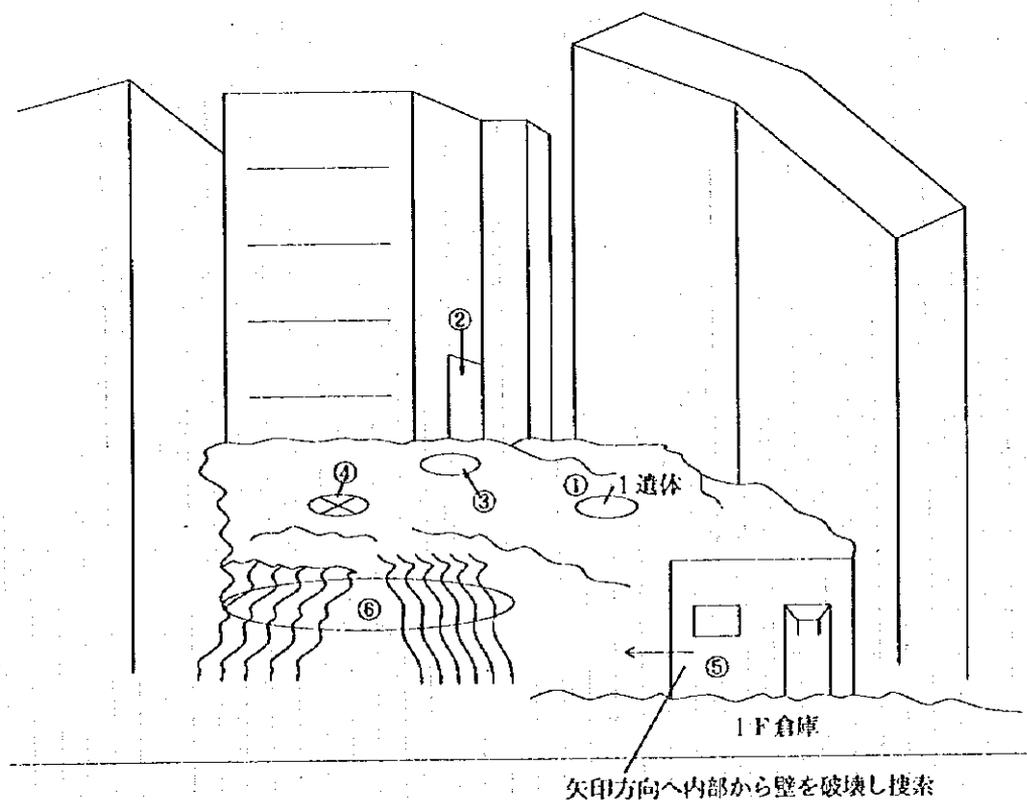
- (1) JDR 到着後、これまで、エ救助隊及びハンガリー救助隊と協力して45の遺体を発見したが、生存者の発見はなし。
(2) 10月31日から活動しているハンガリー救助隊（HUNGARIAN CIVIL PROTECTION という

NGOで、登山家2名、女医1名、犬使い2名、救助犬3匹で構成)とも連携を図っており、各国のチームワークがよい。

*本文の時間はいずれも現地時間

以上

< 見 取 図 >



- 宛先：1. 外務省国際緊急援助室
2. 警察庁国際部国際第一課 ⇨ 警視庁へ転送願います。
3. 消防庁救急救助課 ⇨ 東京消防庁・大阪市消防局・札幌市消防局、松戸市消防局へ
転送願います。
4. 海上保安庁総務部国際課 ⇨ 羽田特殊救難基地・巡視船「のじま」へ転送願います。
5. JICA エジプト事務所

発信元：JICA 国際緊急援助隊事務局

件名：エジプト・ビル崩壊被害救済国際緊急援助隊（その8）

日本時間11月2日朝、JICA 永田調整員及び（消）日野班長よりの連絡を以下のとおり報告します。

1. 活動状況

1日(日)12時～16時 遺体の早期発見を遺族が望んでいることから、電磁波による探索を停止し。南側左斜面のコンクリートの隙間を要請によりファイバースコープで探索。

16時25分 要請によりストライカー2丁で左斜面の救助支援にあたる。中部に空洞を発見、階段と判明するも発見者

17時34分 要請によりライト2本を「エ」救助隊に貸し出す。

17時40分 要請により左斜面下でファイバースコープ探索を行ったが反応なし。

18時10分 左斜面1階の室内をファイバースコープ探索を行ったが反応なし。

19時30分 要請により左斜面の救助にストライカー1丁貸出。

ファイバースコープにより探索するも発見者なし。

19時45分 左斜面の内部確認、右斜面穴からファイバースコープで確認したが、反応なし。

2. 成果

JDR のこれまでの発見遺体数等につき確認中。

3. コメント

エ救助隊員は素手で死体を扱っているとの隊員報告を受け、携行した軍手、ビニール手袋を供与し、感謝された。

*本文の時間はいずれも現地時間

以上

宛先：1. 外務省国際緊急援助室

2. 警察庁国際部国際第一課 ☞ 警視庁へ転送願います。

3. 消防庁救急救助課 ☞ 東京消防庁・大阪市消防局・札幌市消防局、松戸市消防局へ転送願います。

4. 海上保安庁総務部国際課 ☞ 羽田特殊救難基地・巡視船「のじま」へ転送願います。

5. JICA エジプト事務所

発信元：JICA 国際緊急援助隊事務局

件名：エジプト・ビル崩壊被害救済国際緊急援助隊（その9）

日本時間11月2日15時30分、JICA 永田調整員、(消)堤体隊長、(消)山崎班長よりの連絡を以下のとおり報告します。

1. 活動状況

1日(日)22時25分 30歳位の女性の遺体を発見（見取図①）

22時37分 子供1名の遺体を発見（見取図②）

2日(月)1時 カイロ消防長官ナデル将軍が現場視察

残存部分はそのままにして、建物の外から建物の根元まで機械掘で検索を続ける。穴等や室内の空間があればすぐに救助犬やファイバースコープを使う。

2時5分 35歳位の男性の遺体を発見（見取図③）

3時45分 25歳位の男性の遺体を発見（見取図④）

～4時 レスキューツール、ストライカー、クリッパーで救助活動に協力。

2. 成果（11月2日4時現在）

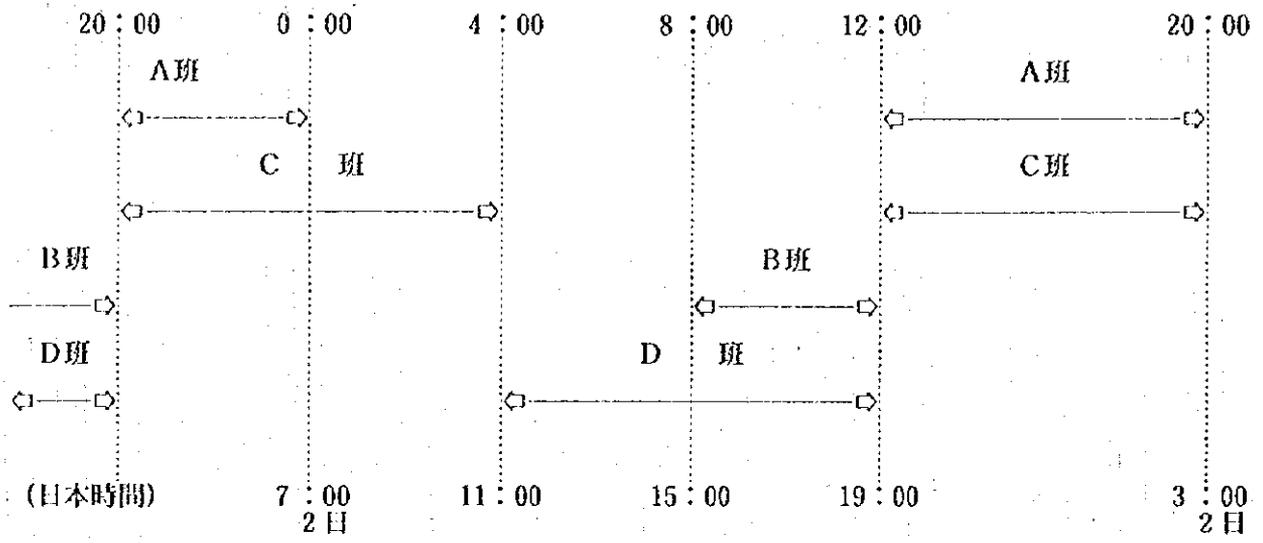
JDR が関与した発見遺体数 22人

発見遺体総数 57人（JDR 到着前も含む）

3. 備考

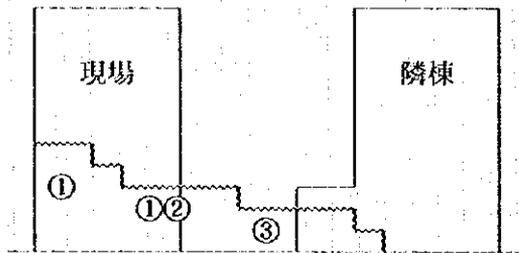
隊員の睡眠不足と疲労を軽減し、二次災害を防止する観点から、当面のシフトを以下のとおり変更した。

1日（金） 2日（土）



*本文の時間はいずれも現地時間

[見取図]



- 宛先：1. 外務省国際緊急援助室
 2. 警察庁国際部国際第一課 ☐ 警視庁へ転送願います。
 3. 消防庁救急救助課 ☐ 東京消防庁・大阪市消防局・札幌消防局、松戸市消防局へ転送願います。
 4. 海上保安庁総務部国際課 ☐ 羽田特殊救難基地・巡視船「のじま」へ転送願います。
 5. JICA エジプト事務所

発信元：JICA 国際緊急援助隊事務局

件名：エジプト・ビル崩壊被害救済国際緊急援助隊（その10）

日本時間11月2日21時、JICA 永田調整員、(警)柳下班長、(消)日野班長よりの連絡を以下のとおり報告します。

1. 活動状況

- | | | |
|-------|--------------|---|
| 2日(日) | 4時～ | 救助活動 |
| | 5時50分 | 性別不明の遺体を発見（右側側面） |
| | 7時12分 | 19歳位の女性の遺体を発見（右側側面） |
| | 7時25分 | 30歳位の女性の遺体を発見（右側側面） |
| | 8時23分 | 性別不明の遺体を発見（右側側面） |
| | 8時40分 | 性別不明の遺体を発見（右側側面） |
| | 8時55分 | 搬送 |
| | 10時45分～11時8分 | 左側斜面に遺体らしきものを発見、レスキューツールで付近の鉄筋を切断したが、遺体ではなかった |
| | 11時25分～12時 | エ救助隊の要請で左側斜面の鉄筋をレスキューツールで切断 |

2. 成果（11月2日12時現在）

- | | |
|---------------|----------------|
| JDRが関与した発見遺体数 | 27人 |
| 発見遺体総数 | 62人（JDR到着前も含む） |

3. コメント

- (1) 重機による作業が進行し、2日12時の時点で前面の土砂はほぼ除去された。

- (2) エ救助隊の要請により、JDR がレスキューツールを使用し、エ側救助活動を促進させた。
- (3) シフトの変更により作業の集中度が増進した。

*本文の時間はいずれも現地時間

以 上

現地状況報告

平成8年11月3日(日)
0時40分

- 外務省国際緊急援助室
- 警察庁国際部国際第一課 ⇨ 警視庁へ伝達願います。
- 消防庁救急救助課 ⇨ 東京消防庁、大阪市消防局、札幌市消防局、松戸市消防局で伝達願います。
- 海上保安庁総務部国際課 ⇨ 羽田特殊救難基地、巡視船「のじま」へ伝達願います。

発信元：JICA 国際緊急援助隊事務局

件名：エジプト国ビル崩壊被害救済国際緊急援助隊（その11）

日本時間3日0時25分、JICA 永田調整員より以下の報告がありましたので連絡いたします。

1. JDRの救助活動は、2日16時にて打ち切り、16時から17時の間に機材を撤収する。その後は隊員はホテルで待機。
2. 3日13時、現場にて献花式と黙禱をささげ、正式に撤収。その後、カイロ県知事を表敬訪問する。
なお、エ救助隊もJDRとほぼ同時に撤収することのこと。

*本文の時間はいずれも現地時間

以 上

- 宛先：1. 外務省国際緊急援助室
2. 警察庁国際部国際第一課 □ 警視庁へ転送願います。
3. 消防庁救急救助課 □ 東京消防庁・大阪市消防局・札幌消防局、松戸市消防局に転送願います。
4. 海上保安庁総務部国際課
5. JICA エジプト事務所

発信元：JICA 国際緊急援助隊事務局

件名：エジプト・ビル崩壊被害救済国際緊急援助隊（その12）

日本時間11月3日朝、JICA 永田調整員及び（警）長岡班長よりの連絡を以下のとおり報告します。

1. 活動状況

- | | | |
|-------|---------|--------------------------------|
| 2日(日) | 12時15分 | 要請により鉄筋の切断作業 |
| | 13時 | 空洞を発見し目視にて搜索するも発見なし |
| | 13時45分 | エ救助隊と協力して1名の遺体を搬出 |
| | 14時40分 | 別な空洞を発見し、ファイバースコープで搜索するも発見なし |
| | 15時15分～ | 活動の終息に向けたエジプト側（ナーデル将軍）とのミーティング |
| | 17時 | 現場活動終了 |

2. 成果（11月2日 17時現在）

JDRが関与した発見遺体数 28人
発見遺体総数 63人（JDR到着前も含む）

3. 今後の活動方針

本日15時15分からのエ側との協議により、今後の活動について以下の点が決定した。

- (1) JDRの救助作業は11月2日の16時で終了し、17時までに機材を撤収する。その後、11月3日(日)まで待機体制をとる。
- (2) 11月3日(日)13時に現場で献花式と黙禱をささげ、正式にJDR現地活動を終了させる。
- (3) 献花式の後、エ救援対策本部にて全隊員がカイロ県知事を表敬する。

*本文の時間はいずれも現地時間

以上

- 宛先：1. 外務省国際緊急援助室
2. 警察庁国際部国際第一課 ⇨ 警視庁へ転送願います。
3. 消防庁救急救助課 ⇨ 東京消防庁・大阪市消防局・札幌市消防局、松戸市消防局に転送願います。
4. 海上保安庁総務部国際課
5. JICA エジプト事務所

発信元：JICA 国際緊急援助隊事務局

件名：エジプト・ビル崩壊被害救済国際緊急援助隊（その13）

日本時間11月3日(日)22時50分、JICA 永田調整員よりの連絡を以下のとおり報告します。

1. 献花式及び黙禱

3日(日)13時から被災現場にて JDR 隊員全員、日本大使館及び JICA 事務所関係者等が一同に会し、今回の災害で死亡した方々のご冥福を祈り、献花し、1分間の黙禱をささげた。

2. カイロ県副知事表敬

3日、13時15分より、エ救援対策本部のカイロ県副知事を日本大使館片倉大使、坂場公使、和田団長、鶴澤・林・谷山の3名の副総括等が表敬訪問し、今回の活動について、片倉大使及び和田団長より、総括報告を行った。

カイロ県ムスタファ・カーメル副知事よりは、JDR の連日の精力的な活動に対し、深く感謝するとの謝意が表明された。

3. 救助用機材をエ側に供与

今回、JDR 救助チームが携行した資機材のうち一部の機材について、今後の同国における救助活動の向上のために役立てるべく、エ側に以下のものを供与した。

レスクーツール	1セット
削岩機	2台
エアージャッキ	1台
ファイバースコープ	1台
地中音響探知機	2台

エンジンカッター 4台

レスキュー用資機材 1式

購入時総額 24,416千円相当

なお、機材の使用方法については活動中にもエ側伝えていたが、万全を期するため本日14時半から17時まで、供与した機材の使用方法について、先方に技術指導を行った。

4. 13時55分から、JDRの前進基地であるヘリオポリスクラブで、日本のマスコミ各社(NHK、TBS、フジテレビ、朝日・読売・毎日新聞等)に対し、記者会見を行った。

5. 最終結果

JDRが関与した発見遺体数 32人(うち5名はJDRが単独で発見した)

発見遺体総数 64人(JDR到着前も含む)

*本文の時間はいずれも現地時間

以上

巻末資料 2

携行機材リスト

PACKING LIST OF ITEMS

No.	Items	Quantity	Weight (kg)	Capacity (M3)	N/Pac	Unit Price (yen)	Amount (yen)
1-4	LUKAS REFTUNGS SYSTEME RESCUE TOOLS	1 SET	243	0.62	4	4,753,000	4,753,000
	GS-2R MOTOR PUMPS						
	LS200B CUTTER / ZPH10/18 HAND PUMPS						
	LSP-41B SPREADER						
	LKS35C COMBITOOL LTR6 TELESCOPIC RAM						
	EXTENSION HOSE 10M						
	CASE FOR EQUIPMENTS						
5-7	DRILLING MACHINE HITACHI DH12 ELECTRICAL DRILL	3	51	0.09	3	106,090	318,270
8-10	AIR TOOL AJAX TOOL WORKS AIR CUTTER	3	120	0.15	3	650,000	1,950,000
11-22	AIR TANK FOR AIR SAW AND AIR TOOL 14L	12	210	0.15	12	20,000	240,000
23-28	ENGINE CUTTER PARTNER K1200	6	228	0.86	6	220,000	1,320,000
29-31	DRILLING MACHINE PIONJAR 121A	6	390	0.91	6	510,000	3,240,000
35-36	DRILLING MACHINE HYDRAULIC DRILLING MACHINE	1 SET	266	0.99	2	1,691,260	1,691,260
	MHD-20 RUBBER AIR JACK						
	MHC-14 RUBBER AIR JACK						
	U-100 POWER PUMP						
	CUTTER ETC						
37-38	AIR JACK VETTER-V RUBBER	2	228	0.92	2	1,836,120	3,672,240
39-40	PORTABLE WINCH TIRFOR TU-16	2	100	0.25	2	73,000	146,000
41-45	LIGHT KANEKO LIGHT	5	230	0.95	5	380,000	1,900,000
46-50	TRIPOD OF LIGHT	5	40	0.31	5		
51-53	OLYMPUS FIBRE OPTIC STANDARD MODEL	1 SET	115	0.41	3	3,872,000	3,872,000
	PARTS FOR FIBRE OPTIC						
	GENERATOR FOR FIBRE OPTIC HONDA EG-1200X						
54-59	OLYMPUS FIBRE OPTIC SPECIAL MODEL	2 SET	286	1.16	6	6,925,011	13,850,068
	PARTS FOR FIBRE OPTIC						
	GENERATOR FOR FIBRE OPTIC HONDA EG-1200X						
	FIBRE OPTIC SPECIAL VERSION 1F13D3-60-S-3						
	MONITOR AND OTHER PARTS						
	OLY-2)						
	CASE						
60-62	FUJI FR-201 STEREO VOICE DETECTOR	3	87	0.12	3	1,227,318	3,682,014
63-66	CHAIN SAW PARTNER P-400	4	32	0.16	4	116,000	464,000
67	AIR COMPRESSOR BAUER C2B-SP	1	142	0.57	1	2,703,000	2,703,000
	PARTS FOR BAUER						
A 68	1A-1C	1 SET	252	2.07	3	2,205,720	2,205,720
B-69	COTTON WORK GLOVE	275					
C-70	LEATHER GLOVES	200					
	ANTI FIRE GLOVE	60					
	COGGIES	30					
	MASK	510					
	HEAD LIGHT	32					
	TORCH LIGHT	30					
	BATTERY FOR LIGHT	4					
	BINOCULARS	3					
	COMBUSTIBLE GAS ALARM	6					
	OXYGEN INDICATE / ALARM	6					
	EXPOSITION/TOXIC GAS DETECTION KIT	2					
	HITACHI EUM 01Q/TWT	9					

PACKING LIST OF ITEMS

No.	Items	Quantity	Weight (kg)	Capacity (M3)	N/Pac	Unit Price (yen)	Amount (yen)
71	PORTABLE MEGAPHONE	2	5	0.13	1	21,000	42,000
K1-72	KIRAKO 1-3	1 SET	430	0.47	3	1,465,300	1,465,300
K2-73	SCOOP	30					
K3-74	WIREROPE CUTTER	3					
	10 LBS HAMMER	3					
	ALMIGHTY AX	3					
	PICK	6					
	PIPE WREV	5					
	PINCERS	6					
	SHOCK PAD	10					
	AX	6					
	SAW	6					
	DOOR OPENER	6					
	CROWBAR	6					
	BOARD FOR PATCH	12					
75	18-A	1 SET	120	0.55	1	956,000	956,000
	RAIN COAT	18					
	SURVIVOR SLING	6					
	ROPE 100M	5					
76	18-C	1 SET	148	0.35	1	300,000	300,000
	ROPE 100M	6					
	ROPE 50M	3					
	ROPE 30M	1					
	ROPE	50					
	KARABINER	6					
	RENCEUR BELT	6					
77	KIBAKO 4	1 SET	37	0.16	1	100,000	100,000
	KARABINER	20					
	ROPE 30M	2					
	ROPE 4M	20					
78	KIBAKO 5	1 SET	72	0.31	1	500,000	500,000
	GOGGLES	50					
	SAFETY BELT	50					
79	KIBAKO 6	1 SET	178	0.56	1	200,000	200,000
	GAS MASK	50					
	ABSORPTION TANK	1,500					
80	FUEL TANK	2	10	0.20	1	10,000	20,000
81-82	BLANKET	20	20	0.15	2	0	0
83-86	GOODS 21-A 21-B 21-C 21-A	1 SET	336	2.75	4	150,000	150,000
87-88	Helmet	30	50	0.20	2	6,500	195,000
89	CORD REEL 100V	3	25	0.10	1	7,000	21,000
			4,471	17.41	89		49,957,562

PACKING LIST OF ITEMS

No.	Items	Quantity	Weight (kg)	Capacity (M3)	No. of Pcs	Unit Price (yen)	Amount (yen)
	SIRIUS Electromagnetic Search Equipment TOKYO SHOBOCHO	2	120	0.90	6		
	STRIKER TOKYO SHOBOCHO	3	15	0.75	3		
	RELIEF EQUIPMENT TOKYO SHOBOCHO	1	27	0.12	1		

135 165 10

رقم الصادر ٨١٥٢
تاريخ الصادر ١١/١٩



وزارة الخارجية

العلاقات الثقافية الدولية

مذكرة

تهدى وزارة خارجية جمهورية مصر العربية - العلاقات الثقافية الدولية - أطيب تحياتها الى سفارة اليابان بالقاهرة ، وبالإشارة الى الطلب الذى تقدمت به محافظة القاهرة لايفاد فريق انقاذ يابانى للمشاركة فى أعمال انقاذ عمارة مصر الجديدة المنكوبة والاستجابة الفورية من جانب حكومة اليابان الصديقة وهيئة الجاىكا اليابانية لذلك وتزويد الفريق بأجهزة ومعدات خاصة بعمليات الانقاذ والتصوير والبحث أسلل الانقاذ بالإضافة الى منح بعض هذه الاجهزة والمعدات كمنحة لاترد الى ادارة الدفاع المدنى والاطفاء بمحافظة القاهرة بناء على رغبةها ، فضلا عن ملازمة اعضاء السفارة ومكاتبها لفريق الانقاذ بالموقع .

فان وزارة خارجية جمهورية مصر العربية - العلاقات الثقافية الدولية - تنتهز هذه المناسبة لتعرب للسفارة الموقرة عن فائق التقدير والشكر على هذه الاستجابة الفورية وما قام به فريق الانقاذ من جهود طيبة بمعاونة السفارة الموقرة .

الى سفارة اليابان بالقاهرة

صورة الى هيئة التعاون الدولى اليابانية بالقاهرة

Translation

Ref. 8053

Dated. 96/11/19

The Minister of Foreign Affairs
International Cultural Relations

NOTE VERBAL

The Egyptian Ministry of Foreign Affairs -The International Cultural Department- presents its compliments to The Japanese Embassy in Cairo . And referring to the request submitted by Cairo Governorate to dispatch a Japanese Rescue Team to assist in the rescue works of the Heliopolis Collapsed Building , and the immediate response of the Japanese Government and Japan International Cooperation Agency to this request . And with reference to the rescue equipment donated to The Fire Brigade and Civil Defence Department in Cairo Governorate , and the great efforts of the Embassy members and JICA members who attend the rescue works of the Team at the site .

The Egyptian Ministry for Foreign Affairs - the International Cultural Relations Department avails itself of this opportunity to express it's appreciation and gratitude to the Japanese Embassy for this quick response and the great efforts exerted by The Japanese Rescue Team with the support of the Japanese Embassy .

To the Embassy of Japan

C . C Japan International Cooperation Agency

EMBASSY OF THE ARAB
REPUBLIC OF EGYPT
TOKYO

No.139

The Embassy of the Arab Republic of Egypt in Tokyo presents its compliments to the Ministry of Foreign Affairs of Japan and with reference to the collapsed building in Cairo on Oct. 27, 1996 has the honor to convey the gratitude of the Governor of Cairo, H.E. Mr. Muhammed Omar Abd Al-Akher to the Japanese Rescue team on their outstanding support rendered to the Government of the Arab Republic of Egypt to help evacuate the building.

The Embassy of the Arab Republic of Egypt on Tokyo avails itself of this opportunity to renew to the Ministry of Foreign Affairs of Japan the assurances of its highest consideration.

Tokyo, December 10, 1996

To: Ministry of Foreign Affairs of Japan



エジプト・ビル崩壊事故救済国際緊急援助隊・救助チーム

帰国報告会概要

日時：平成8年11月19日（火）15：30～17：00

場所：JICA国際会議場11CD

出席者：外務省	国際緊急援助室	室長	和田 章男 (団長)
警察庁	国際第一課	警視	鶴澤 憲一 (隊長)
		警視	廣田 敏一
		警部	大宮 秀之
消防庁	救急救助課	課長補佐	林 栄太郎 (副総括)
		係長	上田 尚弘
海上保安庁	羽田特殊救難基地	隊長	谷山 繁隆 (副総括)
	警備救難部救難課	専門官	黒木 喜年
		専門官	大根 潔
		係長	一條 正浩
	総務部国際課	事務官	佐藤 正之
JICA		理事	小澤 大二
	青年海外協力隊事務局	管理課	永田 健 (調整員)
	国際緊急援助隊事務局	管理課長	川路 賢一郎
		業務課長	山本 愛一郎
		業務課長代理	石上 俊雄
		業務課員	中根 卓

内容：(敬称略)

(小澤) 救助チームの派遣は、マレーシアビル崩壊事故の派遣以来3年ぶりであったが、皆さんの活動に対しては高い評価を得ている。今回の派遣を受けて、改善すべき点、特に成田に備蓄している携行機材の整備について改善を図っていきたいと考えている。また、置いてきたファイバースコープの使用方法を指導するための調査団を派遣することも決定した。今後も外務省、警察庁、消防庁、海上保安庁と協力、指導を得ながら緊急援助事業の充実を図っていききたい。

(和田) 10月30日より11月6日にかけてエジプトに派遣された国際緊急援助隊救助チームの団長を務めた。団長として警察、消防、海上保安庁から派遣された隊員に謝意を示したい。今回の活動は、ビル崩落によって瓦礫に埋もれた約80名のビル住民を救済すべく派遣された。収容された遺体は64体であった(内32体が日本チーム参加のもと発見された)。日本チームは、エジプト側が最も生存者がいる可能性が高いとみた箇所を電磁波人命探査装置、ファイバースコープ等を駆使し救助活動を行った。今回のチーム24名の内20名が阪神大震災での救助活動経験者であり、またハイテク機材を携行したチームであった。今回の救助チーム派遣は、日本・エジプト両国の

友好関係の構築に大いに寄与したと思う。人命救助には国境がないことを改めて感じた。今後も関係機関と協力して国際緊急援助業務を推進していきたい。

- (鶴澤) 隊の評価はマスコミの反響によって計られるが、今回の派遣に関して、非常に評判がいい。今後の派遣のために、別の機会に細かい部分の改善点を探っていきたいと思う。
- (林) 派遣までに消防庁は対応に迫られた。派遣前は、どのような活動を行うべきかを考えた。人命探査装置やファイバースコープを使用する際には危険が伴ったが、無事に活動を行うことができた。8時間交代のローテーションを組んだが、果たして効果的であったか、今後検討を要する。活動時間は、3日間のべ61時間にわたり、死臭が漂うなど悪条件の中頑張ったと思う。救助活動の経験がある人間が、救助活動の記録を取るべき。広域災害、風水災害、局地災害の3つに災害を分けそれぞれの対応（部隊人数、携行機材）を予め検討しておくとうまい。備蓄資機材の定期点検及び資機材リストの見直しを是非お願いしたい。派遣要請を受けてから派遣までのさらなる時間の短縮に努めて欲しい。
- (谷山) 海上保安庁のJDRの隊員としての参加は初めてのことだった。海上保安庁では特殊救難隊員が、JDR隊員の持機者となる。今回の派遣は、海上保安庁にとってもプラスとなった。救助機材を供与できたことは、同機材に興味を示していたエジプト側にとってプラスとなったと思う。
- (川路) 詳細な改善事項の打合せは、今後5者協議の場で話し合いたい。ところでエジプト側及び他国の救助活動について如何。
- (林) 日本以外にはドイツ隊及びハンガリー隊がJDR到着前から活動していた。メキシコ隊も救助活動終了後だが、現場にきた。エジプト側との連携としては現場指揮者のナデル将軍に対し技術的な助言を行った。現場の細かい点はアイマン少佐と連携して行った。
- (川路) エジプト側の現場での作業人数は如何。
- (林) 常時50～60人はいた。
- (林) エジプト側の装備はあまり良いものではなかった。
- (小澤) JDR派遣の際には、破傷風や肺炎などの予防を行ってから行くべきだと思う。
- (鶴澤) 破傷風よりも、A型肝炎（アフリカではB、C型も含む）や腸チフスが問題。
- (和田) 予防接種を含めた隊員の健康管理は、真剣に検討すべきことだと思う。
- (川路) ユニフォームについて意見を伺いたい。
- (鶴澤) 隊長と隊員の区別がつくような制服（階級章を入れる）にするべきである。また、ポケットを増やした方がよい。
- (林) 1週間以上の活動が予想される場合はユニフォームは2着必要である。
- (川路) 電磁波人命探査装置のようなハイテク資機材は必要か
- (和田) 日本の緊急援助隊の特性としてハイテク資機材の携行は必要である。
- (林) 今後の緊急援助活動を考えた場合、人数は今回派遣の24名は最低必要である。資機材の見直しを行うべきである。派遣準備の時期に機材の選定作業について十分協議してから出発すべきである。

以上

エジプト国ビル崩壊被害救済国際緊急援助隊救助チーム
帰国隊員アンケートで指摘された改善点等（抜粋）

*アンケート回収人数18名。右肩の数字は同一意見の人数

1. 実施体制

派遣時

- ・記録・写真担当要員の確保 6
- ・派遣隊員数の増加（24時間体制のため） 3
- ・現地・日本のマスコミ報道よりの伝達（隊員の士気の高揚） 2
- ・出発までの時間のさらなる短縮 1
- ・現地到着時における最新情報の提供 1
- ・出発前に資機材を選定したい 1

平時

- ・活動報告日誌の様式の設定・統一 4
- ・資機材の定期的メンテナンス 4
- ・野営訓練 1
- ・3庁合同での想定訓練 1

2. 今後必要と思われる資機材 1

現在備蓄していないもの

- ・高出力トランシーバー 7
- ・折りたたみ式リヤカー（機材運搬用） 6
- ・簡易型ファイバースコープ 5
- ・電動カッター（鉄筋切断用） 4
- ・工具セット 4
- ・カッターナイフ 3
- ・変圧器 2
- ・ハンモック式のヘルメット 2
- ・2サイクル用オイル 1
- ・混合燃料をつくるポリタンク 1
- ・燃料ポンプ 1
- ・サイリウム 1
- ・鍬・ジョレン 1
- ・スリングロープ 1

- ・電磁波探査装置 1
- ・高所作業用ハーネス 1
- ・レトルト食品・キャンプ用コッヘル 1
- ・ガムテープ 1
- ・画像探索機II型（サーチカム） 1
- ・安全帯につける小型の斧 1
- ・大型鉄線クリッパー 1
- ・指揮台 1
- ・発電機用プラグ 1
- ・ストライカー 1

備蓄しているが今回携行しなかったもの

- ・救命用担架

3. 装備資機材に対するコメント

- ・ファイバースコープは、スペシャル型よりスタンダード型の方が使いやすい 3
- ・手袋・メガネ・マスクを増やす（現地救助隊員に配布） 3
- ・ハイテク機器よりも最後は素手 2
- ・ヘルメットには指揮系統や名前をしめす名札をつけるべき 2
- ・供与機材は複雑なものより簡単なものがよい 1
- ・削岩機よりストライカーの方が使いよい 1
- ・電磁波探知器を使うには活動スペースが狭すぎた 1
- ・少々性能は落ちてても条件や場所を選ばず使用でき故障しないものがよい 1
- ・JDRステッカー・ワッペンは100枚位必要（人・車の識別用） 1
- ・携行機材と隊員の荷物の色違いのリボンをつけるべき（トラブル防止） 1

以上

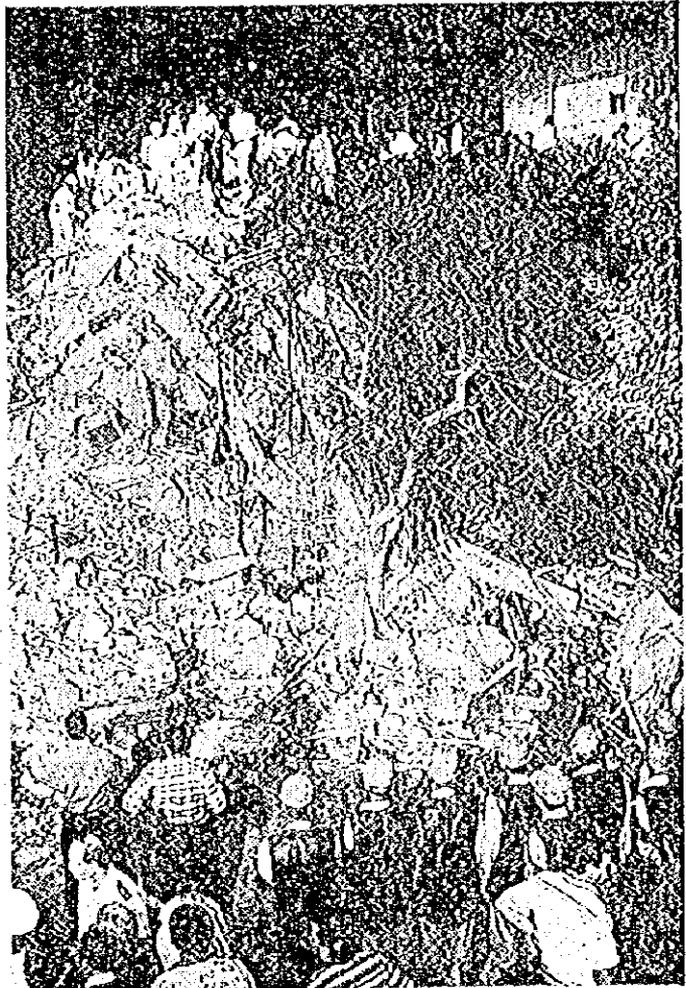
写

8.10.28

毎日(夕刊)

〔カイロ27日共同〕カイロ郊外ヘリオポリスで27日、12階建てのアパートが倒壊、少なくとも2人が死亡、17人が負傷した。アパートには10家族以上が居住しており、行方不明者は約100人になると思われる。建物のがれきの中に閉じ込

アパート倒壊 100人不明



現場で救出作業に当たる作業員ら＝ロイター

12階、築25年

カイロ郊外・2人死亡

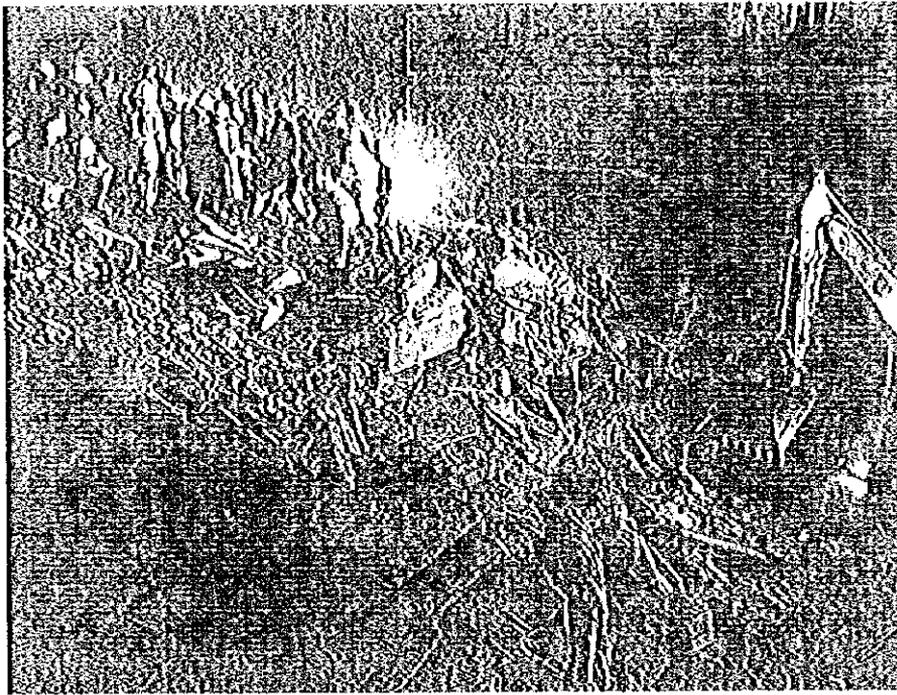
徹夜で救出作業

められている人の救出作業が夜通し続けられ、これまでに約20人が救出された。テレビなどの報道によると、建物の前面と側面の壁が崩壊し、一部の壁が残っているだけ。目撃者によると、突然大きな音がして砂煙が上がり、数人がアパー

トのバルコニーから飛び降りるのが見えたという。アパートは築後25年。倒壊の原因は分からないが、最近1階で壁を取り除く作業が行われたという。今月9日にカイロ周辺で地震があり、建物の基礎が損傷を受けた可能性もある。

8.10.28

写



突然、倒壊してがれきの山となったカイロ近郊の高級アパート（A.P）

産経(夕刊)

ビル倒壊、3人死亡 120人以上が行方不明

カイロ

【カイロ28日】大乗爆から三人が死亡、百二十人以上がエジプトのカイロ近郊でが行方不明となった。二十七日夜、十二階建ての倒壊現場は、カイロ北東のアパートが突然、倒壊しの大統領官邸に近い高級住宅地が突如、倒壊し、大規模な住宅街ヘリオポリスにあるビルで、住民らが生き埋めにな。宅街ヘリオポリスにあるビルで、少なくとも高齢の女性ルで、付近の住民によると

爆弾のような大音響のあと、ビルが一瞬にして崩れ落ち、付近はほごりて覆われたという。
現場は高さ五層以上のコンクリートなどのガレキの山と化し、救急隊や車から六百人以上が出勤してショベルカー、ブルドーザーなどでガレキを掘り起こす作業を行っている。

8.10.29

15 rescued from ruins of Cairo apartment

CAIRO (AP) Rescue workers using cranes and sniffer dogs Monday pulled 15 survivors from the ruins of a collapsed 12-story apartment building in suburban Cairo, but dozens of other people were still believed trapped inside.

Since the Sunday night collapse, 15 bodies have been removed, and police say more than 60 people remain unaccounted for. Six survivors were rescued Sunday.

Police detained a building contractor and an engineering consultant for questioning Monday, saying they may have been responsible for weakening the building's

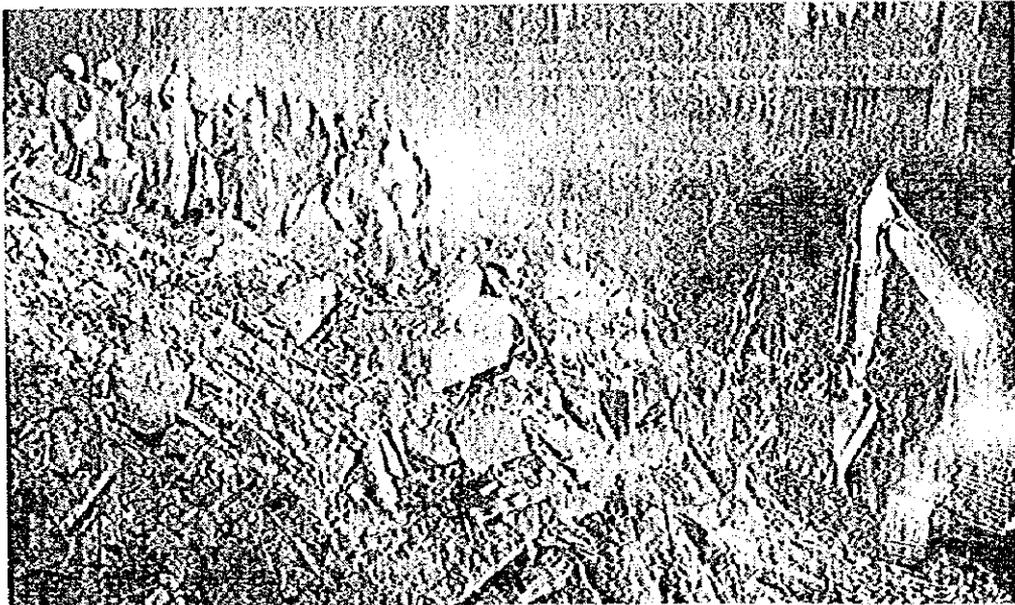
structure by ordering the removal of walls during the renovation of an apartment.

The building's owner also was arrested, police said.

Some residents of the 40-apartment building jumped from their balconies as the concrete-block and plaster building crumbled, neighbor Ahmed Mohammed said. He said he heard two loud noises Sunday evening, then could see nothing but a huge cloud of dust being thrown up by the collapsing walls.

Egyptian television said the structure housed an X-ray clinic and patients could have been trapped there.

Japan Times



RESCUE WORKERS check the rubble of a collapsed apartment building on the outskirts of Cairo Sunday in their attempts to find survivors. AP PHOTO

96/10/28 エジプト: カイロで11階建てのアパートが崩壊、死者・行方不明者は100人以上

【カイロ 27日 ロイター】 エジプトのカイロ郊外で27日、11階建てのアパートが崩壊し、これまでに2人が死亡、少なくとも100人が行方不明となっている。

ガンズーリ首相はロイター通信に対し、これまでに19人の生存者が救出され、救助隊が引き続きがれきの中を捜索している、と述べた。

「まだ、崩壊の原因を断定できる段階ではない。現時点では、可能な限り多くの生存者を救出するよう努力している」と、同首相は語った。

崩壊した建物は築25年で、わずかに一角が倒れずに残っている。現場の警察官の1人によると、救助隊は、生存者がいるとすればこの一角だとみている。

原文参照番号 [nCAI000077]

(c) Reuters Limited 1996
REUTERNEWS SERVICE

96/10/27 EGYPT: TWO DEAD, 100 MISSING IN CAIRO BUILDING COLLAPSE.

CAIRO, Oct 27 (Reuter) - Two people were killed and at least 100 others are feared dead after an 11-storey residential building collapsed in a Cairo suburb on Sunday. Egyptian Prime Minister Kamal Ganzouri told Reuters that rescue workers had so far pulled out 19 survivors and were frantically burrowing in a mountain of rubble for more.

"It is too early to tell the cause of the collapse... what we are working on now is getting as many alive people as possible," he said.

The porter of the building said he thought renovation work in one of its 40 apartments might have affected its infrastructure and caused the collapse. The building is located near the residence of Egyptian President Hosni Mubarak.

"All of a sudden we heard a sound like a bomb and then dust. Then we heard what sounded like people crying for help," said Magdi Abdel Fouttough who lives in the neighbouring block.

Passers-by helped rescue workers search the rubble mountain.

Doctor Mahmoud Riyad of the nearby Manshiet el-Bakry hospital said one of the dead was an old woman who had suffocated beneath the dust and concrete slabs.

(c) Reuters Limited 1996
REUTERNEWS SERVICE

8.10.29



日経(夕刊)

エジプトへ救助隊検討
 倉田寛之国家公安委員長は二十九日の閣僚懇談会で、エジプトのカイロ郊外で二十八日午前(日本時間)に発生したアパート崩落事故に対し、国際緊急援助隊の派遣を検討していることを報告した。警察庁、消防庁、海上保安庁で編成する予定。派遣の規模や期間については現在、外務省と調整中で、倉田委員長は「早ければ三十日にも現地に派遣したい」としている。国際緊急援助隊の派遣は九三年十二月のマレーシアのビル崩壊事故以来になる。

産経(夕刊)

死者15人に
 カイロのビル倒壊
 依然70人以上不明
 「カイロ29日」大家俊夫「エジプトのカイロ近郊で十二階建てアパートが倒壊した事故で、死者は二十九日未明(日本時間同日午前)の段階で十五人に達し、七十人以上が依然行方不明だ。」

96/10/29 日本: <緊急援助隊>カイロのアパート倒壊事故の救出作業に派遣=替

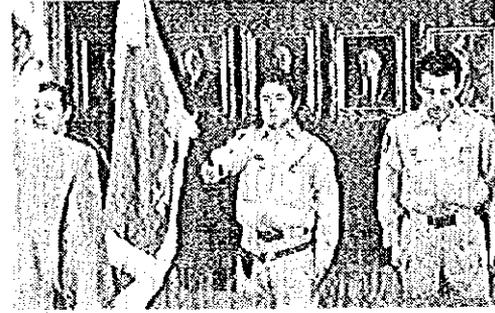
政府は29日、エジプトのカイロ郊外で27日に発生したビル崩壊事故の被災者救助のため外務省と警察庁、消防庁、海上保安庁の関係者24人で構成する国際緊急援助隊の派遣を決めた。30日に日本を出発し、がれきの下になっている人の探知と救助に当たる。この事故による死傷者は28日現在、死者6人、行方不明約100人に上っている。政府は事故発生を受けてエジプト政府に派遣の用意があることを伝え、29日朝にエジプト政府から受け入れの連絡を受けた。

[毎日新聞10月29日] (1996-10-29-21:43)

国際派
にカイク
隊助救

市消防局の2人初参加

「磨いた技術生かしたい」



桂市長から出動に派遣され救援活動を行う命令を受ける、国際消防救助隊の山崎英樹司令補(右)と工藤光浩士長

国際消防救助隊は、海外で起きた大災害で救援活動を行うことを目的に昭和六十一年に発足。消防関係では全国各地の消防本部から隊員五百一人が登録されており、札幌市消防局では十人の隊員が、いつでも出動できる体制を取っている。今回は札幌市のほか東宮消防庁、大阪市消防局などから計八人が同隊に加わるとになり、桂信雄市長が同日、出動を命じた。同市からの海外救助派遣は初めてで、二人は「全力を尽くし、期待に応えたい」と力強く決意を語った。

市消防局から派遣されるのは、山崎英樹司令補(右)と、工藤光浩士長(左)で、ともに北海道南西沖地震や阪神大震災の際に、被災地

1996年(平成8年)10月30日(水曜日)

自寛 車 衆所 及門

カイクに隊員派遣

大坂市 消防局 アパート崩壊で救援

エジプト・カイク郊外のアパート崩壊事故で、政府が派遣する国際消防救助隊

のメンバーとして、大坂市消防局から二十九日午後、国際消防の相田光一消防士長と、阿倍野消防局の大塚通真消防士長との二人が出発した。出発に先立ち、命令交付では「国際派の任務をまっすぐこなすべく、緊張気味に話していた。他のメンバーと合流し、三十日、現地へ向かう。ともに市消防局が今年、発足させた特別救助隊(四十八人の隊員。同市からの派遣は一九九一年にパンクラティエウでのサイクロン災害以来、五年ぶり)の隊員。同隊は、被災国からの要請を受けて、外務省などが編成する。今回は九人を派遣する予定。

倒壊ビルから2人救出

カイロ女性、36時間ぶりに

【カイロ29日路透電】カイロ・ヘリオポリス地区のビル倒壊事故で二十九日、がれきの中に閉じ込められていた女性二人が約三十六時間ぶりに無事、救出された。救出された人は、これだけで二十四人となったが、死者は十八人になり、なお約九十人が不明のままだ。

救出隊によると、二人は入居のエジプト人学生フアウジさん(ひと)と、崩壊時たまたまフアウジさん宅を訪ねていた米国人の友人

「カイロ29日路透電」カイロ・ヘリオポリス地区のビル倒壊事故で二十九日、がれきの中に閉じ込められていた女性二人が約三十六時間ぶりに無事、救出された。救出された人は、これだけで二十四人となったが、死者は十八人になり、なお約九十人が不明のままだ。

救出隊によると、二人は入居のエジプト人学生フアウジさん(ひと)と、崩壊時たまたまフアウジさん宅を訪ねていた米国人の友人

家族は、ビルの外にいて難を逃れた。救助は現在、ドイツが派遣したボランティアと赤十字が支援している。

政府、救助チーム派遣 エジプトのカイロ郊外で起きた十二階建てビル倒壊事故で政府は二十九日、国際協力事業団(JICA)を通じて国際緊急援助隊救助チームを現地に派遣することを決定した。

エジプト政府からの派遣

要請を受けたもので、救助チームは警視庁、東京消防庁、大阪、札幌市消防局、海上保安庁などのレスキュー隊員を中心に二十四人で構成。三十日午前の成田発英国航空で現地に向かい、十一月六日までの予定で、生き埋めとなっている人の救助活動を行う。

カイロのビル崩壊で緊急援助隊を派遣

政府は29日、エジプトのカイロ郊外で27日に発生したビル倒壊事故の被災者救助のため外務省と警察庁、消防庁、海上保安庁の関係者24人で構成する国際緊急援助隊の派遣を決めた。30

日に日本を出発し、がれきの下敷きになっている人の探知と救助に当たる。この事故による死傷者は

28日現在、死者6人、行方不明約100人になっている。政府は事故発生を受けてエジプト政府に派遣の用意があることを伝え、29日朝にエジプト政府から受け入れの連絡を受けた。



【カイロ29日路透電】カイロのビル倒壊救助隊派遣 エジプトの首都カイロで二十八日未明、十二階建てのビルが崩壊し、百人以上が生き埋めになる事故があり、東京消防庁の隊員らによる国際消防救助隊が同国に派遣されること

が、二十九日決まった。同国からの政府への要請にこたえ、救助隊はきょう三十日午前、出発する。

○エジプトに緊急援助隊派遣 政府は二十九日、エジプトの高層アパート倒壊事故の行方不明者を捜索するため、外務省、警察庁、消防庁、海上保安庁など二十四人で構成する国際緊急援助隊の派遣を決めた。エジプト側の要請を受けたもので、三十日に出発、三十一日にも救助活動を始め、救助隊は平成五年にマレーシアのビル倒壊事故で救助チームを派遣した例があるほか、今年五月バンクアラブで起きた高層ビルで医療チームが派遣され

平成 8 年 10 月 30 日 (水)

大阪市消防局 エジプトの救出に派遣

大阪市消防局は二十九日、阪神大震災をきっかけに今年発生したばかりの特大、二人は国が持つた困難別救助隊の相田光一消防士、消防救助隊員七人と合流し、エジプトで発生したアバート崩壊の事故現場で、生存者を探し出して、救出活動をする。

援助隊員2人 札幌市が派遣

カイロのビル崩壊 エジプト・カイロ郊外で起きた土曜夜ビル崩壊事故で、札幌市は二十九日、被災者救済のため市消防局の職員二人の派遣を決めた。自治省の出国要請を受けた対応で、市消防本部の山崎英樹消防団長(三三)と白石消防署の工藤光博消防士長(三三)が現地に行く。二人は、政府が派遣する国際緊急救助隊の一員として、東京消防庁、大阪市消防局などの隊員とともに三十日、成田空港から出発する。

8.10.30



産経(朝刊)

○エジプトに緊急援助隊派遣。政府は二十九日、エジプトの高層アバート崩壊事故の行方不明者を探検するため、外務省、警察庁、消防庁、海上保安庁など二十四人で構成する国際緊急援助隊の派遣を決めた。エジプト側の要請を受けたもので、三十日に出発、三十一日にも救助活動を始める。援助隊は平成五年にマレーシアのビル崩壊事故で救助チームを派遣した例があるほか、今年五月パナングラデッシュで起きた高層ビルで医療チームが派遣された。

東京消防庁

国際救助隊へ3人派遣

エジプトビル倒壊 新人命探査機2基持ち

エジプトのカイロ郊外へリボリスで27日、12階建てのビルが倒壊し、100人以上の行方不明者が出た事故で、東京消防庁は29日、自治省消防庁からの要請に基づき、職員3人を国際消防救助隊に派遣することを決めた。30日に出発する。

派遣されるのは、屋十九消防団副団長(55)の山野進消防団長(45)と井上光男消防団長(34)の3人。国際消防救助隊にはこのほか大阪市消防局の職員ら6人が派遣され、現場消防団長が隊長を務める。

事故現場では、建物のがれきの下に閉じ込められている人が多数いるとみられる。

救助隊は電波を使った探査機2基を持ち込む。探査機は倒壊したビルに電波を発射し、反射された電波によって人の生存を確認できる最新機材。国際消防救助隊が海外へ派遣するのは初めてで、現場で大きな威力を発揮してこれら(東京消防庁)と

朝日(朝刊)

毎日(朝刊)

地新聞(東京)

カイロのビル倒壊 2人を救出 死者12人に

カイロのビル倒壊 2人を救出 死者12人に

○カイロ29日川上野ビル倒壊。ビル倒壊から三日の二十九日朝、米国人とエジプト人の女性二人が救出され、がれきの

中になお生存者がいることに期待をもたせた。内務省によると、これまで十二人の死を記録、二十一人が救出、二十一人を救出したという。ビルは住民約百五十人のうち、百人ほどの行方分かっておらず、かなりの人数が生き埋めになっていると思われる。

毎日(朝刊)

30時間ぶり
2人を救出

カイロの崩壊アパート
【カイロ29日共同】カイロ郊外のヘリオポリスで21日起きたアパート倒壊事故で29日午前(日本時間同午後)、発生から三十数時間ぶりに米国人とエジプト人の20歳前後の女性2人ががれきの下から救出された。2人は病院に運ばれた

が、精神的なショックを受けているという。有力なアル・ハマムは29日付で、自傷し救出された人の話として、アパート階の銀行が拡張工事をして柱に鉄釘が入り、倒壊事故につながったとの見方を示した。

Japan Times

15 survivors are pulled from Egyptian building

CAIRO (AP) Using cranes, shovels and their bare hands, rescue workers pulled 15 survivors Monday from the ruins of a collapsed 12-story apartment building in a Cairo suburb, but dozens more were still missing.

By nightfall, 15 bodies were found in the rubble of the building, which collapsed Sunday in Helipolis, an upper middle class residential and commercial suburb on the east side of Cairo.

Police said more than 69 people were still unaccounted for. Six were rescued Sunday.

Scores of anxious relatives stood in the street Monday, many weeping and others too stunned to talk.

Anahed Abdel-Messih, a woman in her 20s, said her parents were in an X-ray clinic in the building when it collapsed.

"I don't know if they are still alive," she cried. "It needs a miracle."

Dr. Adel el-Sharouni, Cairo's chief of emergency aid, said he had to amputate the arm of one victim and the leg of another to free them from the debris. "We couldn't get them out without the operations," he said.

Police detained a building contractor and an engineering consultant for questioning Monday, saying they may have been responsible for

weakening the 30-year-old building by ordering the removal of walls during the renovation of an apartment.

The structure's owner also was arrested, police said.

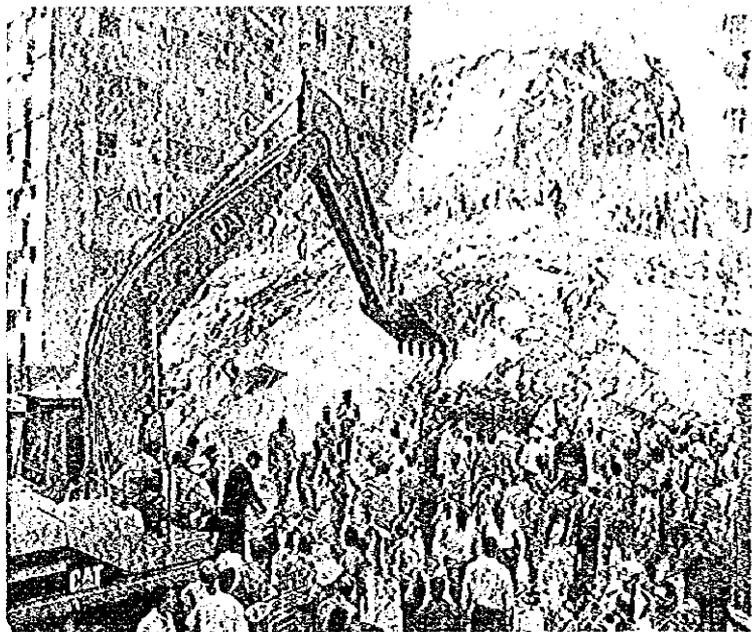
Many buildings in Cairo are poorly constructed. Building owners often add floors beyond the number allowed on their permits, contractors cheat on materials and there is little government enforcement of zoning or construction codes.

Gen. Mukbil Shafri, commander of the army's Engineer Corps, who was supervising the rescue work, told Egypt's Middle East News Agency he believed changes were made to the columns supporting the front of the building, causing the collapse.

A neighbor, Ahmed Mohamed, said some residents of the building jumped from their balconies as the structure crumbled Sunday evening. He said he heard two loud noises, then could see nothing but a huge cloud of dust being thrown up by the collapsing walls.

All but the back side of the building fell, piling debris five stories high.

Rescue workers dug through the night Sunday and all day Monday trying to find survivors in the building, which had more than 40



RESCUE WORKERS and military personnel search through the rubble Monday of a collapsed apartment building in Cairo in their attempts to find more survivors. AP PHOTO

apartments and several offices.

Cranes moved huge slabs of concrete, sniffer dogs prowled the ruins and special sound devices were brought in to listen for tapping or calls for help.

A police major general at the scene said it would take days to clear the rubble. "If we can make it in five days, I

will be very thankful to God," said the officer.

A Jordanian citizen who was visiting the X-ray clinic was among the dead. Relatives of two Saudi diplomats were missing and feared buried under the rubble, MENA reported. They included the wife and four children of Lutfi Moussa, a Saudi diplomat assigned to Cairo, and the sister

of Ahmed et Turki, the kingdom's deputy minister of communications. MENA said

Most of the building's residents were believed to be Egyptians.

An earthquake of roughly magnitude 6 rocked the region Oct. 9, and perhaps weakened the building's foundation.

8. 10. 31
東京新聞(7)

社 会 面

日本の緊急 救助隊も到着

カイロの崩壊事故

【カイロ30日共同】カイロ郊外で十二階建てのアパートが崩壊した事故で、生き埋めとなった住民らの救出に当たる日本の国際緊急援助隊(和田章男団長、二十四人)が三十日深夜(日本時間三十一日午前)、カイロ空港に到着した。同隊は消防庁や警視庁などの専門家で構成。三十一日朝から、首脳探査機などを使って救助活動に入る。



8.10.31

日経(夕刊)

アパート倒壊事故

日本の援助隊

エジプト入り

【カイロ30日中西俊博】二十七日にエジプトの首都カイロ郊外で起きたアパート倒壊事故の被災者を救援

するため、日本の緊急援助隊が三十日夜、エジプト入りした。外務省の和田章男・国際緊急援助隊長を団長とする援助隊は同省のほか警察庁、消防庁、海上保安庁の専門家、担当者を中心として二十四人で構成、三十一日からエジプト政府を支援する形で救助活動を始める。アパート倒壊事故は所収者が、逸話に連て増したことなどが原因で起き、少なくとも死者が三十人以上、行方不明者は推定約八十人の惨事となった。

日本の援助隊 救出作業開始

カイロの崩壊ビル

〔カイロ31日〕川上泰徳(カイロ郊外で起きたアパートビル崩壊事故の救援活動のため、日本の国際緊

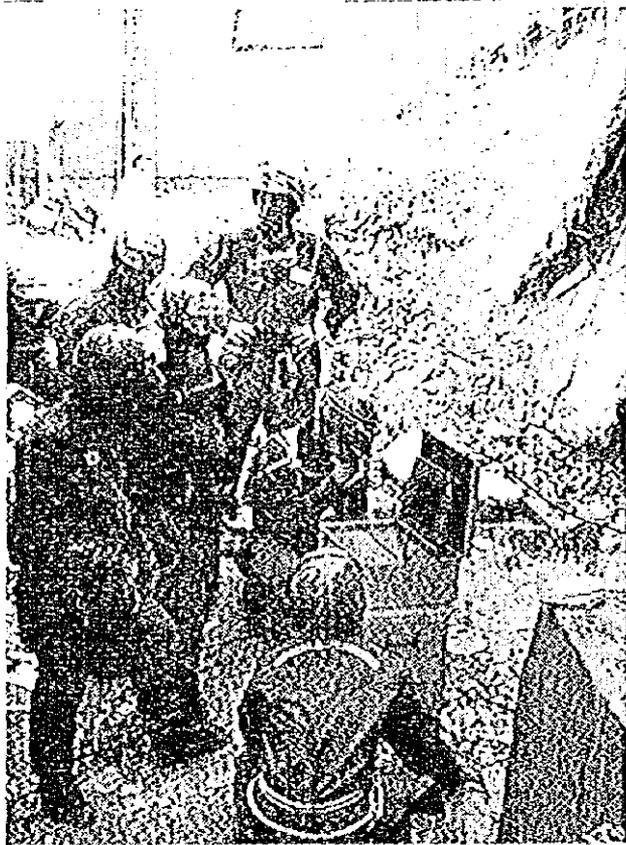
急援助隊(和田章男団長)の二十四人が三十日深夜、カイロ空港に到着、三十一日未明から早速現場で作業を始めた。最新機材を持ち込んだの救援だが、事故発生から五日目で、八十時間以上たち、生存者の可能

性は非常に低くなっている。

崩壊したビルは鉄筋コンクリート造り十二階建て。

二十七日夕、突然崩れ、これまで死者三十一人が確認され、二十二人が救出された。内務省によると、ビル住民のうち三十人ほどがなほ行方不明という。

現場には、ドイツの赤十字社からのボランティアチーム六人がいるが、外国政府の救助隊派遣は初めて。



ビル崩壊現場で、最新式の人命探査装置を使い、がれきの中に生存者がいるかどうかを探る日本の国際緊急援助隊(31日朝、カイロのヘリオポリスで、川上写す)

Egyptians expect more disasters from shoddy construction

CAIRO (AP). As rescue workers searched Saturday for the last of 66 people believed killed in an apartment building collapse, Egyptians were growing angrier over shabby construction practices that make more tragedies inevitable.

"There are laws but people try to outsmart the laws, and this brings disasters," said Lt. Col. Abdel-Meguid el-Adi

of the Civil Defense Authority, who has been at the site of the ruined building since it fell a week ago.

"The government can't chase after everyone with a stick," he added. "They should just have a conscience."

Shoddy construction practices began in the early 1970s, when a business boom and a rocketing population sent prices for apartments in the capital soaring.

Real estate became a highly profitable investment, and landowners squeezed every penny they could from their holdings.

"They divided large apartments in half to create two rental units. They even enclosed balconies with glass and plaster to create one-room apartments. And they added additional floors to existing buildings, whether the foundation could handle it or not.

Contractors got rich, too, by mixing more sand and water with cement to make an inferior concrete.

The result, said Milad Hanna, is that "there is a whole generation of buildings that need to be checked" for safety.

Although building collapses are not unusual in Egypt, the Oct. 27 tragedy struck a chord of fear because it occurred in an upmarket district of Iffeh, home to middle-class families and classy shops and restaurants.

On Saturday, police pulled a white teddy bear with pink paws and a still-running clock from the debris. They also pulled out a man's head.



エジプトのビル倒壊事故

先月三十日にエジプト入り続けたが、ハ
 体の遺体を発見したが、ハ
 イテク機器を使ってもこれ
 までのところ生存者を見つ
 けることはできていない。

先月三十日にエジプト入り
 続けたが好意を得ている
 ようだ。

ビル倒壊による死者は
 一日夕現在で、約五十人に
 達している。ヘリオポリス市
 の現場は、ヘリオポリス市
 の現場は、ヘリオポリス市

日本の救援隊、現地で評価

関係者から評価の声が上がる。現場にはエジプト警察・消防隊の救出作業に協力する。エジプト国営放送が「アジアから道路はるばる救援協力をしてくれた」と称賛。有力紙「アラブ」は「夜中も多くのコンピューター機器を動員

現場にはエジプト警察・消防隊の救出作業に協力する。エジプト国営放送が「アジアから道路はるばる救援協力をしてくれた」と称賛。有力紙「アラブ」は「夜中も多くのコンピューター機器を動員

徹夜の手作業 好感

ハイテク捜索機器も大きく報道

し、埋もれた人の捜索に当たると、様子などを社会面トップで詳細に報じた。

ただ、汚臭やホコリの充満する現場では、ハイテク機器よりも体を張った捜索隊員を評価する声が目立ち、救援作業の指揮現場であるナデル・ヌアマン・カイロ消防署長は「日本チームは長い時間、懸命にがんばりを怠らぬ自分たちの手を使い働いた点でもよく評価している」と述べた。

(カイロリ中西隆博)

カイロの日本援助隊
 救命作業を打ち切り
 (カイロ4日川上泰
 徳)カイロ郊外で起きたアパートビル崩壊事故の救援活動に突いた日本の国際緊急援助隊(和印救済隊)は二日夕、エジプト政府と協議の結果、生存者がいる可能性はないと判断して、救命作業を打ち切った。三日には現場に献花して作業を終了した。この事故による死者数は六十四人となった。

編集後記

立…ODA、特に無償資金協力にかかわる開発コンサルタントの意識を高めるため、本誌ではさき頃緊急アンケート調査を実施した。結果については今月号の96～99頁に詳報しているが、内容的な多様化、複雑化に伴い、その対応に苦慮している姿がうかがえる。施設案件の減少傾向から「技術力を生かせない」、「ビジネス的に成り立たない」といった声も聞かれ、一部に“無償離れ”の気配を感じさせる。“顔の見える援助”が関心を集めている中、気になるところである。

(和泉)

立…ODAとNGOの連携。お互いの利点を求め、協調を図っているが、うまく行っていない面もある。官主導というところに固執するのでは、本当の意味での連携にはならない。NGOと真のパートナーシップをという覚悟がODA側には必要である。

(磯貝)

立…最近、会社の前の道路が改修された。以前は凸凹であったのだが、真っ平らになり色まで付いた。心なしか通り一帯が明るくなったように感じられ、気持ちも足どりも軽くなる。そして、“インフラ整備が成された途上国の町の人達も同じように感じているのかな”、“いや、それとも自分が単純なだけなのかな”などと悩みながら会社に入っているのである。

(田代)

次号予告

【新春特集】転期に立つ日本のODA

- 有識者アンケート調査
「日本の顔の見える援助とは……」
- 途上国援助と財政投融資
- どうなるNPO法案のゆくえ
- 日本の環境協力の方向と課題

etc.

海外定期購読のご案内

海外での購読はOverseas Courier Service Co., Ltd. (OCS)海外営業所またはOCS本社へお申し込み下さい。

OCS本社 購読課 TEL 03-5476-8131
FAX 03-3453-9338

国際開発ジャーナル社
International Development Journal

1996年12月号 通巻481号

発行編集人 荒木光瀬
編集委代表 鈴木源吾

談話室

●52時間30分の救助活動—エジプトで
10月27日にエジプトのカイロ近郊で12階建てのビルがほぼ全壊する事故が発生した。この災害現場に警察庁、消防庁、海上保安庁の3庁と外務省(総括)、JICA(業務調整)から成る国際緊急援助隊救助チームが派遣された。(34ページにも関連記事)

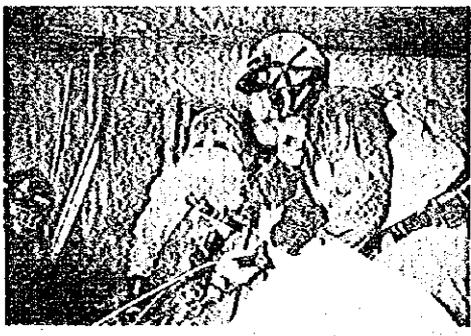
救助隊は10月30日の深夜にカイロに到着後、ただちに現場に直行。午前4時から撤収するまで52時間30分にわたって、エジプト関係者が手を焼く難所で

率先して生存者の探索に当たった。隊員22名のうち20名が阪神淡路大震災での活動経験があったという。

日本隊の活動現場を千人近い家族や市民らが見守り、口々に感謝とねぎらいの言葉がかけられ、エジプト国営放送や地元有力紙「アムハラ」紙でも日本隊の活躍が報道された。

警察庁の警備隊一隊長は、「3庁の連携がスムーズにいった。携行した電磁波探知機などの機材が我々を大いにバックアップしてくれた」と語っている。

(磯貝)



発行所 株式会社 国際開発ジャーナル社
東京都港区赤坂2-13-19 〒107
多聞堂ビル3F
電話 03(3584)2191(代) FAX03(3582)5745
振替口座 00140-9-171484

関西支社 大阪市中央区南久宝寺町4-4-1 〒541
新御堂ビル602号室
電話 06(243)2558 FAX 06(243)2552

印刷所 研友社印刷株式会社
年間購読料 9,800円 定価850円(本体825円) 送料108円

「JICAサテライト」11月号

警察庁・消防庁・海上保安庁が チームワークを組んで活躍 エジプト国ビル崩壊被害救済 国際緊急援助隊・援助チーム

さる10月27日夕刻、エジプト国内のカイロ県ヘリオポリス市（カイロ市内から車で約30分）で、12階建てのビルがほぼ全壊する災害が発生。翌28日、急行した倒壊現場でJICAエジプト事務所はカイロ県の消防長官から、救助チームの派遣と救助用の機材（瓦礫を取りのけるためのジャッキ、削岩機、生存者を発見するためのファイバースコープ）の不足について協力を要望したい旨の情報を得た。これに基づき、同日深夜エジプト政府から救助チームの要請が日本に対してなされた。

日本政府は先方からの派遣要請を受けて、同月29日に国際緊急援助隊救助チーム24名の派遣を決定。チーム構成は、外務省から総括1名、JICAから業務調整1名、消防庁、警察庁、海上保安庁から構成される

救助隊員22名。22名の隊員のうち、20名が阪神淡路大震災での経験を持っていた。

派遣期間は10月30日から11月6日までの1週間に及んだが、政府の援助機関が救助活動を行ったのは日本のみで、地元の国営テレビ、有力紙において日本の救助隊の活躍が伝えられた。

和田章男団長（外務省経済協力局国際緊



●国際緊急援助隊・救助チームの活動現場（エジプト）。12階建アパートのほとんどががれきの山と化した。

エジプト援助隊代表者が 総裁に帰国報告

11月19日、エジプト国ビル崩壊事故救済国際緊急援助隊救助チームの代表者が、総裁を表敬訪問し、活動結果などを報告した。

訪問したのは、外務省国際緊急援助室の和田章室長(団長)、警視庁国際第一課の鶴澤憲一警視(隊長)、消防庁救急救助課の林栄太郎課長補佐(副総括)および海上保安庁羽田特殊救難基地の谷山繁隆第二隊長(副総括)の4名で、小澤理事が同席した。

席上、団長より、残念ながら生存者の救出はできなかったが、ハイテク機器を駆使した救助活動ができたこと、エジプト人とともに1日24時間ほごりにまみれて活動した日本チームに対して、エジプト官民から高い評価を受けたことが報告された。

これに対して総裁より、「遠くの国にもかかわらず早々に対応できたことがよかった。隊員の献身的な仕事ぶりがエジプト官民の心を打ったと思う」とねぎらいの言葉があった。

緊急援助隊救助チームの派遣は、1993年12月のマレーシア・ビル倒壊事故以来3年ぶりの派遣であった。

(緊援隊業務課長/山本)



総裁に報告する外務省国際緊急援助室の和田室長(左)

TV 報道

- | | | |
|-------|-------|-------------|
| 10/31 | 17:50 | 東京12ch ニュース |
| | 18:15 | 日本 TV ニュース |
| | 18:27 | TBS ニュースの森 |
| | 18:50 | フジスーパータイム |
| | 19:35 | NHK 7時のニュース |
| | 23:15 | NHK23時のニュース |
| 11/1 | 08:00 | NHK おはよう日本 |
| | 09:55 | BS-NHK |
| 11/4 | 18:30 | TV 朝日 |